

2023 年度 静岡県社会福祉協議会 ふれあい基金助成事業

静岡福祉文化を考える会調査研究事業

私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査報告書



静岡福祉文化を考える会

2023年度
静岡県社会福祉協議会ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動推進助成事業
静岡福祉文化を考える会 調査研究事業
私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査報告書

☆☆☆☆☆☆☆☆ 目 次 ☆☆☆☆☆☆☆☆

はじめに 中学生からの地域への提言をいかに活かせるか	1 P
第1章 調査の概要	2 P
1. 調査実施意図 2. 調査方法と調査日 3. 調査票の形式及び調査項目 4. 調査対象と調査票の配布及び回収 5. 調査実施機関 6. 調査協働	
第2章 サンプル構成・基本属性とクロス集計について	7 P
1. 性別 2. 学年別 3. 家族構成別 4. 兄弟姉妹別 5. 地域別 6. クロス集計	
第3章 調査結果	11 P
1. 基本属性 2. 生活状況（中学生自身）に関すること 3. 家庭・家族に関すること 4. 地域社会・地域活動に関すること 5. 地域における福祉実体験に関すること 6. 地域社会への期待・提言 7. 厳しい社会環境の中で、調査に協力いただいた方々からの声 ○本会協働 志縁団体「焼津福祉文化共創研究会」とは？	
第4章 調査のまとめ	47 P
第5章 資料編	52 P
1. 2023年度活動経過記録 2. 「静岡福祉文化を考える会」28年の歩み 3. 共創社会実現研究会（調査研究部会）設置要綱 4. 調査実施要項 5. 調査票 6. 「OUR LIFE第146号～第150号」（本会広報誌） 7. 静岡福祉文化を考える会規約 8. 中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で学ぶ“ご近所福祉”コーナー	

☆これからの福祉を考えるネットサイト

はじめに

中学生から地域への提言をいかに活かせるか

本会は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合型学習の理論と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」の「3つの活動基調」を掲げ、具体的には、第1の柱立て：啓発学習事業—地域総合型学習を通して、県内各地の実践活動に学ぶ、第2の柱立て：活動のプロセスを重視し、協働による地域づくりを検証する、第3の柱立て：調査研究活動を通じて、地域ニーズを把握し、地域づくりを提言する、の「3つの柱立て」により、これまで、市民活動・志縁団体として「静岡発 福祉文化の創造」をめざして、活動に取り組んできました。

改めて、本会の誕生は、「日本福祉文化学会」からの強い要請を受けて、阪神淡路大震災（1995年1月17日）1年後の3月30日・31日の2日間、浜松市（「浜松子ども園」「プレスタワー」）において、「静岡発 みんなで語ろう 福祉文化を21世紀の礎に一人間らしい豊かさを目指して、いま文化としての福祉を語る—」をテーマに、全国各地から400名余の参加者を迎えて開催しました「日本福祉文化学会第11回現場セミナー」が原点です。このセミナーを実現するに当たり、高校生から、先輩市民まで約40名余が参集し、知恵を出し合いながら運営に取り組みました。

この尊い取り組みを活かし、身近な地域課題を世代や領域を超えて研究討議できる活動集団を立ち上げようと議論を深め、「福祉文化」を共有することを目的に、1996年9月に「静岡福祉文化を考える会」が誕生しました。結成以来、「調査研究活動」は、地域の課題を基に、大人、高齢者、児童（小学4年生から6年生）をそれぞれ調査対象に、「共働きに関する調査」「地域とは何か」「家族とは何か」「父親とは」「ボランティア活動」「就労」「青少年の生きがい」「地域とは何か—その2—」「子どもと社会環境」「地域活動と団塊の世代の役割」「長寿者の生きがい」「日常生活と福祉情報」「長寿者に関する県民意識と実態」「生活圏域における支え合い」「地域と私の居場所」「家族とは何か」「長寿者とつながるホッとすること」「豊かに暮らせる地域づくり」「若者の地域参加」「ご近所福祉」「居場所とは何か」「子どもを育む地域づくり」「ホッとすること256名の子どもたちに聞きました調査」「ご近所福祉—その2—」「児童対象に福祉に関する調査」「高齢者の意識と実態調査」と、継続的に取り組んできました。

28年目の今年度は、「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く」を本会の活動テーマに、「調査研究活動」は、これまで、地域参加を大いに期待しながらも、積極的な呼びかけをしてこなかった中学生対象に、厳しいコロナ禍から、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、近い将来、地域の担い手を期待し、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、世代間交流できるこれからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で調査に取り組むことといたしました。

いかにして、中学生から回答をいただけるか、当初から、本調査については、かなりの困難を予測し、調査票の回収目標を300枚として、関係方面に依頼してまいりました。

本会の活動の趣旨をご理解いただき、最終的に、351名の尊い中学生の意見をいただくことが出来ました。長引くコロナ禍に加えて、猛暑の中を、精力的に、調査活動に取り組んでいただきました、県内の市町社会福祉協議会、福祉施設、そして地域活動実践者の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

調査研究活動を実施するにあたり、「焼津福祉文化共創研究会」（焼津市港地区において住民主体に「ささえあい講座」を3年間開講し、その後2019年4月に、講座運営に関わった有志14名で立ち上げ5年目の地域活動に取り組んでいる）と「共創社会実現研究会（調査部会）」（期間中10回開催）を協働で設置し、円滑に調査研究活動が展開できるように、努力してまいりました。

この「調査報告書」が、これからの地域づくりの一助になれば幸いです。

ここに、「静岡福祉文化を考える会」の28年目の「調査研究活動」の実施にあたり、多大なご理解とご支援をいただき「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」として認めていただきましたことにつきまして、心より感謝申し上げます。

2024（令和6）年2月10日

静岡福祉文化を考える会
代表 平田 厚

第1章 調査の概要

1. 調査実施意図

本会の誕生は、日本福祉文化学会からの強い要請を受けて、阪神淡路大震災（1995年1月17日）1年後の3月30日・31日の2日間、浜松市（「浜松子ども園」「プレスタワー」）において、「静岡発 みんなで語ろう 福祉文化を21世紀の礎に一人間らしい豊かさを目指していま文化としての福祉を語る」をテーマに、全国各地から400名余の参加者を迎えて開催しました「日本福祉文化学会第11回現場セミナー」が原点です。

➤ 静岡福祉文化を考える会の原点

- 1989年 「日本福祉文化学会」設立
- 1995年 阪神淡路大震災
- 1996年 「第11回学会現場セミナー」
- 1996年9月 「静岡福祉文化を考える会」結成

スローガン：「地方発福祉文化の創造」

“人間らしい豊かさをめざして、
今、文化としての福祉を語る”

「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合型学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」の3つの活動基調を基に、今年度で28年目の活動に取り組んできた「静岡福祉文化を考える会」は、更に、「第1の柱立て：啓発学習事業—静岡発 福祉文化の創造を目指し、地域総合型学習を通して、県内各地の実践活動に学ぶ」「第2の柱立て：活動のプロセスを重視し、協働による地域づくりを検証する」「第3の柱立て：調査研究活動を通して、地域ニーズの把握を基に、地域づくりを提言する」の3つの柱立てにより活動を展開してきた。

その中でも、「調査研究活動」は、結成当初から、「静岡発 福祉文化の創造」を目指した福祉文化実践活動の重要な柱立ての一つとして、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」として取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

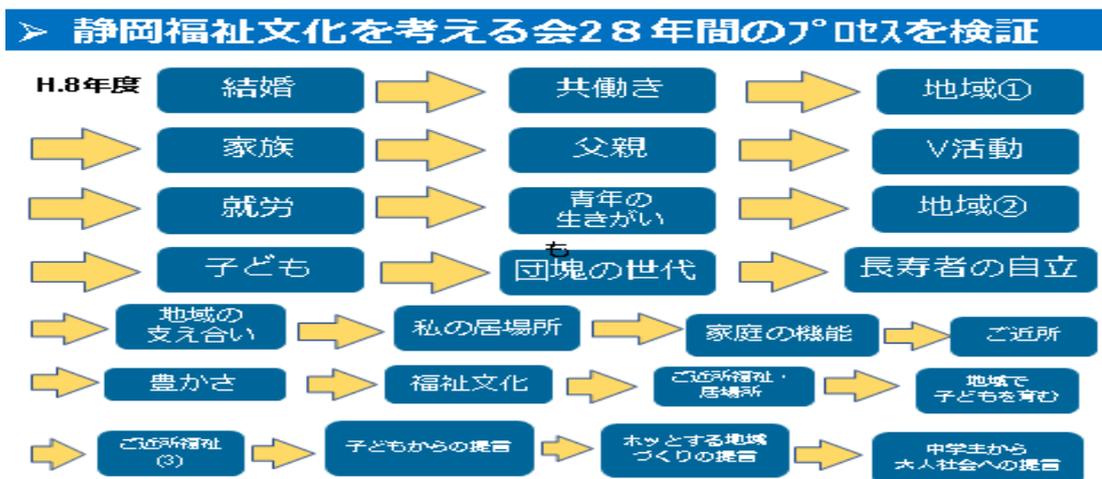
これまで、28年間の調査研究活動を振り返ってみると、

- 1997年度 1. 「共働きに関する調査」
- 1998年度 2. 「私たちにとって、地域とは何か—その1—意識と実態調査」
- 1999年度 3. 「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 2000年度 4. 「父親に関する調査」
- 2001年度 5. 「ボランティア活動実践者意識調査」
- 2002年度 6. 「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 2003年度 7. 「青少年の生きがいに関する調査」
- 2004年度 8. 「地域とは何か—その2—意識と実態調査」
- 2005年度 9. 「子どもと社会環境に関する調査」（継続調査）
- 2006年度 10. 「子どもと社会環境に関する調査」（総括）
- 2007年度 11. 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 2008年度 12. 「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」（静岡県共同募金会助成事業）

- 13. 「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 2009年度 14. 「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2010年度 15. 「いまこそ、地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとは何か本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 2011年度 16. 「地域と私の居場所 その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2012年度 17. 「家族ってなに その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2013年度 18. 「長寿者をつなげるホッとすご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2014年度 19. 「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2015年度 20. 「若者の地域参加 その意識と実態調査」
- 2016年度 21. 「ご近所福祉 その意識と実態調査」
- 2017年度 22. 「居場所ってなにその意識と実態調査」
- 2018年度 23. 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(単純集計)
- 2019年度 24. 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 25. 「256名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか?」(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 2020年度 26. 「ご近所福祉 その意識と実態調査」
- 2021年度 27. 「福祉ってなに? 461名の子どもたちに聞きました調査」
- 2022年度 28. 「ホッとする、安心した地域づくり その意識と実態調査」

と、「27のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

こうした調査研究活動の取り組みの中で、社会全体の問題として取り組まなければならないと、あらゆる角度から検証し、これまでの福祉文化実践活動を関連づけながら事業を展開する、一貫したプロセス重視の視点から考察をしてきた経緯がある。



通算28回目となる、令和5年度の調査研究事業は、これまでの社会的課題を活動テーマにして27年間取り組んできた「共働き」「地域」「家族・家庭」「父親」「ボランティア」「生きがい」「若者」「子ども」「長寿者」「福祉情報」「支え合い」「ご近所福祉」「居場所」等その時代の数々の地域課題を把握した上で、つなぐ・支える地域社会の再構築に向けて、長引く厳しいコロナ禍で、これまでの生活圏域のご近所の支え合いから、地域住民相互のつながりや支え合いが弱くな

り、地域コミュニティへの関わりについて、その意識や実態がさらに希薄化していることから、今年度は、「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く」の国会活動テーマをもとに、これまで、地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉（支え合い）の多様化とともに、その基盤が不透明化、加えて厳しいコロナ禍下、一方では、制度や公助による意図的な支援が当たり前の社会環境にある中で、住民主体の地域の支え合いや、若者との日常的な交流環境には至っていない。

ようやく、ここにきて地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、これからの地域づくりに向けて、地域社会に関心を抱き、近い将来地域の担い手を期待する中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加の必要性を呼びかけるとともに、世代間交流できるこれからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で本調査を実施した。

協働団体：「焼津福祉文化共創研究会」との協議のもと、「焼津福祉文化共創研究会」も、管内2つの中学校の全面的なご支援ご協力のもと、2つの中学校の生徒対象に、調査内容は、ほぼ同じ内容で実施することを確認した。国会及び「焼津福祉文化共創研究会」は、あくまでも、住民主体を基本として、積極的に参画・協力を呼びかけ、これからの地域の課題改善・解決に向けた研究活動として、調査個票の作成検討をはじめ、調査依頼・回収、データ入力・考察等を、「共創社会実現研究会(調査部会)」(期間中10回開催)を設置して、円滑な展開に努めた。

2. 調査方法と調査日

(1) 調査票・項目の検討

6月24日 「助成交付決定書」届く。

7月8日 「共創社会実現研究会(調査部会)」(協働団体：焼津福祉文化共創研究会)を設置し、「第1回研究会(調査部会)」を開催 「本事業計画」「調査実施要項」「調査票」作成等を協議。

7月15日 「第2回共創社会実現研究会(調査部会)」開催 「調査実施要項」「調査票」原案確認。学校関係者に「調査票(原案)」に対する意見をいただく。検討協議を積み重ね「予備調査」実施し、「調査票」を完成し、印刷作業に入る。

8月19日 「第3回共創社会実現研究会(調査部会)」開催。 8/9「調査票」発送確認。

(2) 調査依頼(実施期間)

8月09日 調査時点を9月1日とし、回収まとめを9月30日として、県内各領域に調査票を発送。

(3) 回収・入力(単純集計)期間

9月9日 「第4回共創社会実現研究会(調査部会)」開催。

10月14日 「第5回共創社会実現研究会(調査部会)」開催。

事業経過報告及び回答状況確認と入力作業の進捗状況を確認。

10月16日 351枚回収。

11月01日 351枚の入力作業完了し、クロス集計作業に移行。

11月10日 単純集計及びクロス集計資料を基に、考察作業に入る。

11月11日 「第6回共創社会実現研究会(調査部会)」開催 考察作業確認。(～12/15)

12月15日 本日より「調査報告書」執筆・編集作業に入る。(～1/20)

12月16日 「第7回共創社会実現研究会(調査部会)」開催。

「調査報告書」執筆・編集作業の進捗状況報告と「調査報告研修会」検討
1月20日 「第8回共創社会実現研究会（調査部会）」開催。

「調査報告書」の編集状況確認と「調査報告研修会」の具体的な展開協議。

2月10日 印刷作業に入る。

2月10日 印刷製本仕上げる。

(4) 公表・報告

7月3日以降、「静岡福祉文化を考える会通信第147号～第151号」で、本事業の取り組み及び調査結果を情報提供する。また、関連各種会議や、関係機関・団体等の各種研修会において考察内容を報告した。

2月17日 「第2回公開型研修会：中学生の調査報告」開催。

2月25日 「調査報告書」配布計画に基づき配布。

3月15日 「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業実施報告書」提出。

3. 調査票の形式及び調査項目

(1) 調査票の形式

A3版，両面2ページ，35項目の設問

(2) 調査項目

No.	調査項目	設問 No.	設問数
1	基本属性	設問 1. (問 1. ～問 5.)	5
2	生活状況（生徒自身）に関すること	設問 2. ～設問 10.	9
3	家庭・家族に関すること	設問 11. ～設問 15.	5
4	地域社会・地域活動に関すること	設問 16. ～設問 29.	14
5	地域社会における福祉実体験に関すること	設問 30. ～設問 34.	5
6	地域社会への期待・提言（自由意見）	設問 35.	1

○調査票の組み立てについては、2021年度「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査」（小学4年生～6年生対象）の「調査票」から、今回の調査実施の趣旨に基づく、「設問」として、考察できる内容として、「16の設問」（45%）を採用した。

新たな設問として、「18の設問」を組み立てた。

> 2023年度 中学生対象調査研究事業

- テーマ「私にとってご近所とは、意識と実態調査」
- 管内中学生200名程度協力依頼
- 展開フロー：



4. 調査対象と調査票の配布及び回収

(1) 対象 県内の中学校の生徒（1～3年生）を対象に

約300名の回収を目標に実施。

(2) 配布及び回収状況

学校関係者との事前協議と、予備テストを実施して、県内の市町社会福祉協議会、福祉施設県内地域活動実践者、会員等に調査票を発送した。

厳しい社会状況下、調査票の回収目標を300枚とした。

回収期日までに、回収目標を上回る、351名から回答をいただいた。

①領域別（箇所数）

	会 員	実践協力者	市町社協	福祉施設	合 計
配布枚数	1 0 0 (20)	2 0 0 (30)	2 2 0 (28)	1 8 0 (18)	7 0 0 (96)
回収枚数	5 2 (8)	1 4 8 (18)	5 2 (8)	9 9 (13)	3 5 1 (47)
パーセント	5 2 %	7 4 %	2 4 %	5 5 %	4 6 . 8 %

(2) 地域別 (箇所数)

	東部地域	中部地域	西部地域	合 計
配布枚数	2 0 0 (30)	2 5 0 (31)	2 5 0 (35)	7 0 0 (96)
回収枚数	8 9 (12)	1 1 3 (19)	1 4 9 (16)	3 5 1 (47)
パーセント	4 4 . 5 %	4 5 . 2 %	5 9 . 5 %	4 6 . 8 %

5. 調査実施機関 静岡福祉文化を考える会

6. 調査協働 焼津福祉文化共創研究会

「焼津福祉文化共創研究会」との密接な連携とともに、「共創社会実現研究会（調査部会）」を設置し、単に調査実施の議論だけではなく、本事業全体の活動テーマに基づき、きめの細かい議論を積み重ね、進行管理体制を明確にして取り組んだ。

2023年度「共創社会実現研究会（調査部会）」の開催状況は下記の通り。

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	7月 8日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識、課題整理
第2回	7月 15日(土)18:30 北川原公会堂	調査実施計画協議(調査実施要項・調査個票)
第3回	8月 19日(土)18:30 北川原公会堂	・調査票配布検討、調査実施上の課題反響、調査集計作業
第4回	9月 9日(土)18:30 北川原公会堂	調査回収状況、調査集計作業、協働の課題
第5回	10月14日(土)18:30 北川原公会堂	調査集計作業進捗状況確認
第6回	11月11日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察について検討
第7回	12月16日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書編集作業と地域づくりの課題考察、報告研修会計画
第8回	1月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書確認、報告研修会の具体化
第9回	2月 3日(土)10:00 石津コミセン	調査報告研修の展開確認、調査報告書配布及び実施報告書作成
第10回	2月24日(土)18:30 北川原公会堂	研究会総括(成果) 市社協への報告確認

これまでの調査の大半は、大人対象の調査であったが、今回は中学生対象の調査であるため、調査研究活動の難しさがあった。参考まで、これまでの調査票の回収状況(率)は、

- 2018・2019年度「子どもを育む調査」(大人対象調査) 80.1%
- 2021年度「福祉ってなに?461名の子どもたちに聞きました調査」(子ども対象調査) 75.6%
- 2020年度「ご近所福祉その意識と実態調査」(大人対象調査) 71.0%
- 2017年度「居場所調査」(大人対象調査) 65.8%
- 2016年度「ご近所福祉調査」(大人対象調査) 56.1%
- 2023年度「私にとって“ご近所”とはその意識と実態調査」(中学生対象調査) 46.8%

本会では、厳しい社会状況下、中学生の把握の難しい地域環境の中、初めて中学生対象の調査研究活動を、関係者の多大なご理解とご支援の結果、ここに、考察出来た調査の意義は大きいと感じた。

- (1) 祖父母と一緒に暮らしている … 94名 (27%)
- (2) 親と子どもだけで暮らしている … 247名 (72%)
- (3) その他 … 4名 (1%)

* ここでは、6名回答不明となっている。

* 親と子どもだけで暮らしている回答が247名(72%)と多い中で、祖父母と一緒に暮らしている94名(27%)の核家族傾向の生活環境が伺えた。こうした生活環境から、中学生の思いやりの心がどのように育まれているのかを考察できる。

* 現在の社会環境から、祖父母の存在をもとに、祖父母との同居の中学生の福祉観を考察することができる。

* 2021年度に実施した「児童対象調査」と今回の中学生対象との比較は、

	2021年度(児童対象調査)	2023年度(中学生対象調査)
①祖父母と一緒に暮らしている	26%	27% ↗
②親と子どもだけで暮らしている	73%	72% ↘
③その他	1%	1% →

※今日の家族構成の現状が理解できる。

4. 兄弟姉妹別 「あなたは、あなたを含めて、兄弟姉妹は何人ですか?」の回答では、

- (1) 1人…28名 (8%)
- (2) 2人…179名 (51%)
- (3) 3人…99名 (28%)
- (4) 4人以上…43名 (12%)

* ここでは、2名回答不明となっている。

* 兄弟姉妹の回答では、一番多い回答は「2人」(51%)、二番目に多い回答は、「3人」(28%)、次に「4人以上」(12%)、「1人」(8%)の回答結果であった。

* 家族別構成とともに、兄弟姉妹の関係は、家庭・家族関係及び地域との関係でどのような状況が浮き彫りになるかを考察できる。

* 2021年度に実施した「児童対象調査」とほぼ同じ割合である。

	2021年度(児童対象調査)	2023年度(中学生対象調査)
①1人	13%	8% ↘
②2人	50%	51% ↗
③3人	33%	28% ↘
④4人以上	5%	12% ↗

* 兄弟姉妹状況は、家族構成別とともに、家庭・家族関係と地域社会(ご近所)との関係性をより深く考察出来る。

5. 地域別

- (1) 東部地域…85名 (25%)
- (2) 中部地域…124名 (36%)
- (3) 西部地域…137名 (40%)

* ここでは、5名回答不明となっている。

* 当初から、西部地域への調査依頼が多かった関係もあり、結果的に、西部地域からの回答が多くなった。

6. 「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」調査項目とクロス集計

このたびの調査実施にあたり、「共創社会実現研究会(調査部会)」では、単純集計結果が出た時点で、今後の調査分析をするにあたり、「35の設問項目」をもとに、基本属性とどのようなクロス集計が必要か議論を深めた。その内容は次の通りである。

設問No.	区分	設問内容	基本属性				
			1性別	2学年	3家族構成	4兄弟姉妹	5地域
2	A	生活状況(設問2-10 9問) 今、趣味や特技がありますか	●	●		●	
3		設問 02.で「①ある」と答えた人 あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思えますか	●	●		●	
4		今の生活に満足していますか	●	●	●	●	
5		今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありますか	●	●	●	●	
6		自分のことで困ったとき、主に、誰に話したり相談しますか	●	●	●	●	
7		「ホッとする、安心した居場所」はありますか	●	●	●		●
8		設問 07.で「①ある」と答えた人に聞きます	●	●	●		
9		心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか	●	●		●	
10		友だちが困っていたり、悩んでいたりしたらどうしますか	●	●	●	●	
11		B	家庭・家族に関すること(設問 11-15 5問) 家族と話をしますか。	●	●	●	●
12	設問 11.で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に 聞きます どんな話をしますか		●	●	●	●	
13	設問 11.で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます		●	●	●	●	
14	家の手伝いをしますか。		●	●	●	●	
15	毎日家族と楽しく過ごしていますか		●	●	●	●	
16	C	地域社会・地域活動のこと(設問16-設問 29 14問) 自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか	●	●	●		
17		自分の住んでいる地域の人々との交流について、どのようにお 考えですか	●	●	●		
18		地域は、「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思 いますか	●	●	●		●
19		地域でどのようなことを心掛けていますか	●	●	●		●
20		他人のために何かをしたいと思えますか	●	●	●		
21		近所の人に挨拶をしていますか	●	●	●	●	
22		地域が行うイベントによく参加していますか	●	●	●	●	●
23		設問 22.で「①よく参加している」、「②ある程度している」と答 えた人に聞きます	●	●	●	●	
24		設問 22.で「③あまり参加していない」、「④まったく参加してい ない」と答えた人に聞きます	●	●	●	●	
25		あなたが住んでいる地域は、良い地域だと思いますか	●	●	●		●
26	設問 25.で「①とても良い」「②良い」と答えた人に聞きます。どん な点が良いか	●	●	●			
27	設問 25.で「③あまり良くない」「④よくない」答えた人に聞きます	●	●	●			
28	地域の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか	●	●	●	●	●	
29	身近な地域の情報をどこから得ていますか	●	●	●	●	●	
30	D	地域社会における福祉実体験に関すること (設問 30～ 設問 34 5問) 身近な地域社会の日常的な生活の中で、高齢者や障がいのある 人とのふれあい交流やボランティア活動をしたことがあります か(学校教育以外)	●	●	●	●	●
31		高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していく上 で、必要と思われる支援・サービスについて	●	●			●
32		今後参加してみたい地域活動について	●	●			●
33		地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか	●	●			
34		「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか	●	●	●	●	
35	E	地域社会への期待・提言(設問 35 1問) ともに助け合う地域づくりに向けての、積極的な地域参加や、こ れからの地域社会への期待・提言(自由意見)	●	●	●		

【本会と協働 志縁団体「焼津福祉文化共創研究会」とは?】

平成 28 年度～平成 30 年度まで 3 年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築することができるか」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（焼津市港第 14・23 自治会による組織体「港地域づくり推進会」主催）を開講。

市民主体で取り組んだ、尊い実践講座の 3 年間の取り組みの総括から、次の 10 の地域課題を浮き彫りにした。

- (1) 語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態の仕組みづくり）
- (2) 「地縁組織」（お互い様）と「志縁組織」（使命感）の融合による地域づくりの取り組み
- (3) 「専門性」と「市民性」の融合（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と介護力 UP）
- (4) 当事者組織化の支援
- (5) 具体的な地域の生活支援策の把握
- (6) 管内のささえあいの仕組みづくり
- (7) 総合型地域支援組織の再構築（トータルコーディネート機能）
- (8) 地域を「見える化」する広報啓発
- (9) 制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
- (10) ご近所福祉の復活

その後、この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民（当時 14 名）が、これまでの講座の成果をさらに地域づくりに活かそうと、「志縁団体」として 2019 年 4 月「焼津福祉文化共創研究会」（福文共）が誕生した。

こうした課題改善・解決に向けて、市民有志で結成した「焼津福祉文化共創研究会」は、5 年の歩みとなった。

➤ 1 年目（2019 年度）

- ◆活動テーマ：「港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみの支え合いを検証する」
約 5,000 世帯で組織されている「港地域づくり推進会」（港第 14・23 自治会）管内において、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起。

➤ 2 年目（2020 年度）

- ◆活動テーマ：「港地域の極印所福祉を切り拓くパート2ー協働による地域課題解決を探るー」
「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」。

➤ 3 年目（2021 年度）

- ◆活動テーマ：「港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る」
「福祉ってなに？ 244 名の子どもたちに聞きました」調査活動に取り組む。

➤ 4 年目（2022 年度）

- ◆活動テーマ：「ホッとする豊かな地域づくりを拓く“共創社会”実現を探る」
高齢者対象「ホッとする、安心した地域づくりその意識と実態調査」活動に取り組む。

➤ 5 年目（2023 年度）

- ◆活動テーマ：「地域のニーズ把握から、“福祉文化としての地域のご近所を描く”」
中学生対象「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」活動に取り組む。

第3章 調査結果

第3章では、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」について、35の設問項目の調査票により、県内の市町社会福祉協議会、福祉施設、地域活動実践者等の皆様方の全面的なご理解とご協力のもと、中学生（1年生から3年生）を対象に調査を実施した。

本事業に取り組むにあたり、学校関係者との事前の協議をはじめ、予備テストの実施等を基に、厳しいコロナ禍下、猛暑等、現状を踏まえ、考察するに必要とする調査票の回収目標を300枚として県内各方面に調査票を発送した。

調査時点を9月1日とし、9月30日をめどに回収をお願いした結果、予想を上回る351名（46.8%）の中学生から回答をいただいた。協働団体の「焼津福祉文化共創研究会」とともに、「共創社会実現研究会（調査部会）」を設置し、期間内に10回開催し、入力作業、単純集計と、「性別」「学年別」「地域別」「家族構成別」「兄弟姉妹別」のクロス集計作業をし、第2章 サンプル/基本属性をもとに、35の設問項目の調査結果を下の「6つの領域」に分けて考察した。

なお、本会では、2021年度に、児童(小学4年生から6年生)対象に「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査事業」に取り組んだ。この調査事業の「調査個票」に取り上げた設問のうち、16の設問(◆印)を今回実施した「調査事業」の「調査個票」に組み入れ、児童と中学生の意識と実態の動向を比較検証することとした。

(1) 基本属性(設問1の問01～問04 までの4問)

問01「性別」 問02「学年別」 問03「家族構成別」 問04「兄弟姉妹別」 問05「地域別」

(2) 生活状況(生徒)に関すること(設問2～設問10 までの9つの設問)

設問02 あなたは、今、趣味や特技がありますか。

設問03 設問02.で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いますか。

設問04 あなたは、今の生活に満足していますか。

設問05 あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありますか。

(◆-1) 設問06 あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。

設問07 あなたには、「ホッとする、安心した居場所」はありますか。

設問08 設問07.で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

設問09 あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。

(◆-2) 設問10 あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。

(3) 家庭・家族に関すること(設問11～設問15 までの5つの設問)

(◆-3) 設問11 あなたは、家族と話をしますか。

(◆-4) 設問12 設問11.で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを3つまでお答えください。

(◆-5) 設問13 設問11.で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

(◆-6) 設問14 あなたは、家の手伝いをしますか。

(◆-7) 設問15 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。

(4) 地域社会・地域活動に関すること(設問16～設問29 までの14の設問)

設問16 あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか。

設問17 あなたは、自分の住んでいる地域の人々との交流について、どのようにお考えですか。

設問18 あなたの地域は、「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。

(◆-8) 設問19 あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。

- 設問 20 あなたは、他人のために何かをしたいと思いますか。
- 設問 21 あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。
- (◆-9) 設問 22 あなたは、地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。
- 設問 23 設問 22. で「①よく参加している」、「②ある程度している」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。
- 設問 24 設問 22. で「③あまり参加していない」、「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。主なものを2つまでお答えください。
- (◆-10) 設問 25 あなたが住んでいる地域は、良い地域だと思いますか。
- (◆-11) 設問 26 設問 25. で「①とても良い」、「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか、主なものを3つまでお答えください。
- (◆-12) 設問 27 設問 25. で「③あまり良くない」、「④よくない」と答えた人に聞きます。どんな点が良くないか、主なものを3つまでお答えください。
- (◆-13) 設問 28 あなたは、地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか。
- (◆-14) 設問 29 あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。

(5) 地域社会における福祉実体験に関すること(設問 30～設問 34 までの5つの設問)

- (◆-15) 設問 30 あなたは、身近な地域社会の日常的生活の中で、高齢者や障がいのある人とふれあい交流やボランティア活動をしたことがありますか（学校教育以外で）。
- 設問 31 あなたは、高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していく上で、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを3つまでお答えください。
- 設問 32 あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。
- 設問 33 あなたの、地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか。主なものを3つまでお答え下さい。
- (◆-16) 設問 34 あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。

(6) 地域社会への期待。提言(設問 35 の1つの設問)

- 設問 35 とともに助け合う地域づくりに向けての、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言（自由意見）について、箇条書きでお答えください

1. 基本属性（設問 1 の問 0 1～問 0 5 までの 5 問）

ここでは、設問1の問1から問5の「基本属性」についてまとめた。 行計 項合計 項目内比（静岡県域）

設問01	問01	性別	男性	①	161		46%
			女性	②	187	348	54%
	問02	学年	1年生	①	119		34%
			2年生	②	126		36%
			3年生	③	104	349	30%
	問03	家族について	祖父母と一緒に暮らしている	①	94		27%
			親と子どもだけで暮らしている	②	247		72%
			その他	③	4	345	1%
	問04	何人兄弟姉妹ですか	1人	①	28		8%
			2人	②	179		51%
			3人	③	99		28%
			4人以上	④	43	349	12%
	問05	県内の地域	東部地域	①	85		25%
			中部地域	②	124		36%
			西部地域	③	137	346	40%

(1) 性別について

*男性 161 名(46%)、女性 187 名(54%)と、やや女性の回答が 8%多いが、ほぼ 5 割の同じ回答であった。この回答から、男女別の考察は、より具体的な結果をみることができる。

(2) 学年別について

*1年生 119 名(34%) 2年生 126 名(36%) 3年生 104 名(30%)で、2年生(126 名・36%)の回答が一番多く、次に1年生(119 名・34%)、そして、3年生(104 名・30%)であったが、学年別考察も大きな開きはなく、考察可能となった。

(3) 家族構成別について

*回答の多い順では、「親と子どもだけで暮らしている」247 名(72%) 「祖父母と一緒に暮らしている」94 名(27%) 「その他」4 名(1%)。

*回答結果から、「親と子どもだけで暮らしている」家族が7割を占めているが、「祖父母と一緒に暮らしている」が3割で、身近な地域社会を世代を超えて共有している家庭環境にあることが確認できた。

*核家族化が進んでいる今日、「祖父母と一緒に暮らしている」94 名(27%)は、家族機能の安心感が伺える。ご近所とのつながりも維持できる環境にある。

いかに地域全体で、中学生との交流、青少年健全育成に努めることが出来るかの地域課題があげられる。

(4) 兄弟姉妹別について

*兄弟姉妹の回答では、一番多い回答は「2人」で 179 名(51%)、次に「3人」99 名(28%)、次に、「4人以上」43 名(12%)、「1人」28名(8%)の回答結果であった。

(5) 地域別について

*地域別回答では、一番多い回答は、「西部地域」137名(40%) 次に「中部地域」124 名(36%) そして、「東部地域」85 名(25%)であった。

*当初から、西部地域への調査依頼が多かったため、結果的に、西部地域の回答が多くなった。

2. 生活状況（中学生自身）に関すること（設問 2～設問 10 までの 9 つの設問）

ここでは、35の設問項目のうち、「生活状況に関すること」について、

設問 02 あなたは、今、趣味や特技がありますか。

設問 03 設問02で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思えますか。

設問 04 あなたは今の生活に満足していますか。

設問 05 あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありますか。

設問 06 あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。(◆-1)

設問 07 あなたには、「ホッとする、安心した居場所」はありますか。

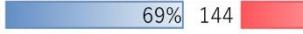
設問 08 設問07で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

設問 09 あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。

設問 10 あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたりしたらどうしますか。(◆-2)

の 9 つの設問の回答結果をまとめた。

設問 02 あなたは、今、趣味や特技がありますか。

	人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問02 あなたは、今、趣味 や特技があります か。	111  69%	144  77%	255  73%
	49  31%	43  23%	92  27%
小計	160	187	347

大人に向かう成長期にある中学生は、多感で、どんなことにも関心を示す年頃である。

生活を楽しくするであろう趣味や特技の有無を聞いた結果、全体では「持っている」73%で中学生生活を楽しくしているとみる。男女別では、女性77%、男性69%と、女性の方がやや多い状況。

「持っていない」27%の回答である。

学年別では「持っている」、2年生76%、1年生・3年生各72%。

		人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問02	あなたは、今、趣味	86	72%	95	76%	75	72%
	ある						
	や特技があります	33	28%	30	24%	29	28%
	ない						
	か。	小計	119	125	104		

これを兄弟別にみると、「持っている」2人75%、3人・4人以上各72%、1人71%、と2人が「持っている」が一番多く、他は、ほぼ同じ割合である。

		人数	1人	人数	2人	人数	3人	人数	4人以上
設問02	あなたは、今、趣味	20	71%	134	75%	71	72%	31	72%
	ある								
	や特技があります	8	29%	44	25%	28	28%	12	28%
	ない								
	か。	小計	28	178	99	43			

設問 03 設問 02 で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いませんか。

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問03	設問02で「①ある	5	5%	9	6%	14	6%
	と答えた人に聞か	46	43%	72	50%	118	47%
	す。あなたの「趣味	20	19%	33	23%	53	21%
	や特技」を地域活動	15	14%	13	9%	28	11%
	に活かそうと思いま	22	20%	16	11%	38	15%
	わかない						
	すか。	小計	108	143	251		

こうした、趣味・特技を、地域との繋がりを持つために、地域活動に活かそうと考えているかを聞いた結果、「大いに活かしたいと思う」「機会があれば活かそうと思う」を合わせると全体では53%が、地域の呼びかけによっては、活かそうと回答している。やや、女性の方が積極的な回答である。

約半数は、「地域活動」に活かそうと回答している。若い世代が、地域活動に関わろうとする一面が伺える。ここから、中学生の地域社会の理解（現状認識）への大人社会のアプローチと、こうした趣味・特技を活かせる地域社会を大人社会がいかに働きかけていくかの課題の一面が伺える。

ここで、中学生が回答した「趣味・特技」の内容を、下記のように一覧表にまとめた。

学年・男女別では、1年生女性60件、2年生男性52件、3年生女性49件、2年生女性48件、1年生男性29件、3年生男性25件と、2年生、1年生、3年生の順に多い回答内容をいただいた。

枠内：内容/回答件数/全体%

回答順位 学年/男女別	1	2	3	4	5
1年生男性(29)	スポーツ/16/55%	その他/9/31%	釣り/2/7% パソコン/2/7%		
1年生女性(60)	スポーツ/16/27%	楽器演奏/12/20%	絵画/10/17%	その他/8/13% アニメ/5/8% 音楽鑑賞/3/5%	歌/2/3% 読書/2/3% ダンス/2/3%
2年生男性(52)	スポーツ/32/62%	その他/13/25%	ゲーム/5/10%	読書/2/4%	
2年生女性(48)	スポーツ/10/21%	その他/9/19%	絵画/6/13%	読書/5/10% 楽器演奏/5/10%	音楽鑑賞/3/6% アニメ/2/4% ダンス/2/4% イラスト/2/4% 手芸/2/4% 書道/2/4%
3年生男性(25)	スポー/13/52%	その他 /4 /16%	ゲーム/3/12% 読書/3/12%	楽器演奏/2/8%	
3年生女性(49)	その他/10/20%	読書/8/16%	音楽鑑賞/7/14%	楽器演奏/6/12% 絵画/6/12%	ダンス/4/8% スポー/5/10% お菓子作り/3/6%

3年生では、「学校の勉強のこと」27%、「進学のこと」25%、「将来のこと」18%、「困っていない」12%、「自分自身のこと」10%、「兄弟姉妹のこと」「友達関係」各3%、「家庭家族のこと」2%。学年別の共通する回答は、「学校の勉強のこと」は、どの学年も高い回答結果である。

家族構成別・兄弟姉妹別では、それぞれ、「学校の勉強のこと」が一番に回答。

		人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問05 あなたには、今悩んでいることや心配なことはありますか。主なものを3つまでお答えください。	家族・家庭のこと	7	2%	1	0%	4	2%
	兄弟姉妹のこと	2	1%	3	1%	5	3%
	学校の勉強のこと	159	53%	57	26%	53	27%
	友達関係のこと	21	7%	23	10%	6	3%
	進学のこと	16	5%	45	20%	48	25%
	将来のこと	23	8%	32	14%	34	18%
	自分自身のこと	29	10%	26	12%	20	10%
	その他	3	1%	1	0%	0	0%
	困っていない	42	14%	34	15%	23	12%
小計		302		222		193	

設問 06 あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。主なものを3つまでお答えください（◆-1）

		人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問06 あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。主なものを3つまでお答えください。	友人	69	25%	102	31%	171	28%
	父親	45	16%	31	9%	76	13%
	母親	83	30%	92	28%	175	29%
	学校の先生	16	6%	21	6%	37	6%
	祖父母	10	4%	12	4%	22	4%
	親戚の人	2	1%	2	1%	4	1%
	兄弟姉妹	9	3%	28	9%	37	6%
	その他に人	0	0%	0	0%	0	0%
	誰にも相談しない	16	6%	18	6%	34	6%
	困っていない	28	10%	21	6%	49	8%
小計		278		327		605	

全体的な回答結果から、回答の多い順に、「母親」29%、「友人」28%、「父親」13%、「困っていない」8%、「誰にも相談しない」「学校の先生」「兄弟姉妹」各6%、「祖父母」4%、「親戚の人」1%。困りごとを、友人に相談することは、大人社会から見ると、少々気にもなる状況にある。

相談の内容にもよるが、日常生活の中で、中学生同士で解決し合う関係の維持は、一方では大切にしていかなければならない。困っていることを打ち明ける相談相手は事柄によって選んでいる年齢に達している感じもする。抱えている問題について、人間関係を大事にしながら、相談相手を見つけている感じでもある。家族の中で、語れる環境をつくることが求められている中で、「父親」の存在が見え隠れしている。「母親」29%に対して、「父親」13%と家族の中で、話しやすいのは母親である印象が強い。男女別では、女性は、友人に相談するが、男性より多い回答。女性は、父親への相談は、男性よりも少ない。また、母親への相談も、女性は、男性よりも少ない。全体的には、男女別、学年別、兄弟姉妹、家族構成別では、全体の回答結果とほぼ同じ。「誰にも相談しない」6%は、相談する必要性が無いのか、相談する人がいないを配慮していくことが必要である。

◆今回の調査結果を、2年前の児童（小学4年生～6年生対象）「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度（児童対象）	2023年度（中学生対象）
①友人	20%	28% ↑
②父親	15%	13% ↓
③母親	35%	29% ↓
④学校の先生	9%	6% ↓
⑤祖父母	4%	4% →
⑥親戚の人	1%	1% →
⑦兄弟姉妹	7%	6% ↓
⑧その他の人	0%	0% →
⑨誰にも相談しない	3%	6% ↑
⑩困っていない	5%	8% ↑

※成長とともに、家族（父親・母親・兄弟姉妹・祖父母）内での相談よりも、友人に相談する傾向が伺える。また、「誰にも相談しない」「困っていない」傾向も少しではあるが増えている。

設問 07 あなたには、「ホッとする、安心した居場所」はありますか。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問07	あなたには、「ホッと とする、安心した居 場所」はありますか。	ある 130 81%	149 80%	279 80%
	ない	6 4%	7 4%	13 4%
	わからない	25 16%	30 16%	55 16%
	小計	161	186	347

人間には、「人的環境」「自然的環境」「物的環境」「空間的環境」の「4つの環境」があるといわれている。中学生の日常の生活環境の中で、落ち着く環境(居場所)はどこかを聞いてみた。

全体的回答では、「ある」80%、「ない」4%、「わからない」16%。

男女別回答結果は、男性81%、女性80%と、ほぼ同じ割合の回答結果である。

回答結果では、学年別、家族構成別ともに、全体的回答と同じ回答傾向である。

設問 08 設問 07 で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問08	設問07で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。	自分の部屋 68 27%	86 27%	154 27%
	家庭	76 30%	81 26%	157 28%
	部活やサークル	28 11%	27 9%	55 10%
	学校	14 5%	21 7%	35 6%
	友達といる場所	48 19%	73 23%	121 21%
	学習塾	6 2%	4 1%	10 2%
	近所の家	1 0%	2 1%	3 1%
	公共施設(公民館・図書館等)	4 2%	4 1%	8 1%
	SNS	5 2%	11 3%	16 3%
	その他	5 2%	6 2%	11 2%
小計	255	315	570	

全体的な回答結果で、一番多い回答が「家庭」28%、次に「自分の部屋」27%、「友だちといる場所」21%で、「部活やサークル」10%、「学校」6%、「SNS」3%、「学習塾」「その他」各2%、「近所」「公共施設(公民館・図書館)」各1%の回答である。

「家庭」「自分の部屋」「友だち」と続くことは、青年期を迎える中学生には当然と捉え、人間関係づくりの助走となる。次に、「部活やサークル」「学校」と、人に興味を持つ年代へと広がっていく。

「自分の部屋」に閉じこもってしまうことがないように、常に、「家庭」とのつながりを大人社会は心掛けたい。「SNS」3%の居場所は、これからの時代性を表している。

女性は、男性よりも「友だちといる場所」の回答は多い。学年別で、目立つのは、進学に備えた時期からか、3年生は、「自分の部屋」100%の回答。1年生は、「家庭」「自分の部屋」は同じ割合、2年生は、「自分の部屋」より「家庭」の割合が高い。そして「友だちといる場所」の割合は、1年生よりも高い。全体の回答傾向である。

家族構成別では、祖父母と一緒に中学生は、「自分の部屋」が一番多く、親子で暮らす中学生は、「家庭」の回答が高い。

設問 09 あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問09	あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。	1人~2人 37 23%	131 86%	168 54%
	3人~4人	52 32%	14 9%	66 21%
	5人以上	64 40%	7 5%	71 23%
	いない	8 5%	0 0%	8 3%
小計	161	152	313	

全体的な回答結果では、「1人から2人」が54%と一番多い回答である。

男女別では、男性は「5人以上」40%と最も多い回答。女性は「1人~2人」が86%と、集団的つながりの男性に対して、女性は、個人的なつながりと大きな開きがみられた。

学年別で、一番多い回答は、1年生「5人以上」40%、2年生も、「5人以上」37%、3年生は「3人~4人」38%である。兄弟姉妹別では、ほぼ、全体的回答と同じ回答結果である。

		人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生	
設問09	あなたには、心を開	1人～2人	30	25%	35	28%	22	21%
	いて話せる友人は、	3人～4人	34	29%	38	30%	39	38%
	何人くらいいます	5人以上	48	40%	46	37%	38	37%
	か。	いない	7	6%	7	6%	5	5%
小計			119		126		104	

設問10 あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたたりしたらどうしますか。(◆-2)

		人数	男性	人数	女性	人数	全体	
設問10	あなたは、友だちが	話を聞く	131	82%	160	86%	291	84%
	困っていたり、悩ん	別の友だちや大人などに相談	14	9%	14	8%	28	8%
	でいたりしたらどう	何もしない	7	4%	4	2%	11	3%
	しますか。	その他	0	0%	1	1%	1	0%
		わからない	8	5%	6	3%	14	4%
小計			160		185		345	

全体的な回答結果では、「話を聞く」84%が一番多い。「別の友だちや大人たちに相談する」8%、次に「わからない」4%、「なにもしない」3%。男女別では、「話を聞く」は、男性82%よりも、女性の方が86%と積極的に友だちに関わろうとする回答。「わからない」男性5%に対して、女性3%からも、女性の積極性が伺える。

		人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生	
設問10	あなたは、友だちが	話を聞く	100	84%	106	85%	86	83%
	困っていたり、悩ん	別の友だちや大人などに	13	11%	8	6%	7	7%
	でいたりしたらどう	何もしない	3	3%	3	2%	5	5%
	しますか。	その他	1	1%	0	0%	0	0%
		わからない	2	2%	7	6%	5	5%
小計			119		124		103	

学年別では「話を聞く」2年生85%と、友だちへの関わりは積極的であり、次に1年生84%、3年生83%の回答である。

		人数	祖父母と一緒に暮らしている	人数	親と子どもだけで暮らしている	人数	その他	
設問10	あなたは、友だちが	話を聞く	79	85%	206	84%	4	100%
	困っていたり、悩ん	別の友だちや大人などに相	8	9%	20	8%	0	0%
	でいたりしたらどうし	何もしない	2	2%	9	4%	0	0%
	ますか。	その他	0	0%	1	0%	0	0%
		わからない	4	4%	9	4%	0	0%
小計			93		245		4	

家族構成別では、「親と子どもで暮らしている」中学生の方が84%、「祖父母と一緒に暮らしている」中学生の85%より、多少、積極的な関わり方の回答結果である。

◆今回の調査結果を、2年前の児童（小学4年生～6年生対象）「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

※児童の回答から、中学生になると、しっかりと相手を受け止めようとする回答結果から「自分自身で相手の話を聞く」回答が約5%高くなっている。

「何もしない」回答も減少し、更には、児童の回答では「わからない」が、今回の調査結果からは、約6%も減少し、積極的な関わりをもとうとする回答結果となっている。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①話を聞く	79%	84% ↗
②別の友だちや大人などに相談する	8%	8% →
③何もしない	3%	3% →
④その他	0%	0% →
⑤わからない	10%	4% ↘

生活状況(中学生)に関する回答結果から見たもの

1. 大人に向かう成長期の中学生に、生活を楽しくする「趣味・特技」の有無の回答とともに、これからの地域社会への関わりに、活かすことが出来るかの回答を求めた。
中学生の約73%は、実に、幅広い領域の「趣味・特技」をもっていると回答があった。
男性・女性ともに、「スポーツ領域」の趣味・特技の回答が多かったが、女性は「文化領域」の内容も、多く含まれていた。学年別・兄弟姉妹別でも、積極的に、生活を豊かにしようとする取り組みが伺えた。
地域社会を十分把握しきれていない年代の中学生からの回答ではあるが、趣味や特技を地域社会に活かそうとする、つながりの機会を持つ回答が53%あった。
こうした回答結果から、大人社会は、中学生に地域参加をどのように働きかけていくか、これからの地域づくりへの大きな課題を投げかけている。
2. 今の生活の満足度は、「満足である」回答が87%。男女別・家族構成別の回答結果も、ほぼ同じ結果。
学年別回答結果では、学年が上がると、10%、13%、18%と不満足回答傾向だが、全体的には、生活基盤が豊かな家庭環境にあると伺えた。
3. 満足な生活環境にあっても、全体の86%は、何らかの悩みを持っていることがわかった。
今、中学生が抱えている悩みの回答の多い順にまとめると、「学校の勉強のこと」「進学のこと」「将来のこと」「自分自身のこと」「友達関係」「家庭・家族のこと」「兄弟姉妹のこと」等があげられている。「困っていない」回答が14%あった。学年が進むに従い、当然ではあるが、「学校の勉強のこと」「進学のこと」「将来のこと」が高い回答となっている。「学校の勉強のこと」は、共通した悩みでもある。
4. 自分のことで、困った時の相談相手は、成長とともに、家族より、友人関係に変化した回答結果である。
なかでも、相談相手の友人関係の広がり大きい。家族の中は、常に、母親が相談相手の中心の回答結果である。2年前の児童対象の調査結果からも、父親の存在感が見え隠れしている。
悩みの内容にもよるが、人間関係を大切にしながら、家庭の中で、語れる環境に心掛け、父親の出番ができる工夫もしていきたい。
「父親の復権」については、今日、社会の大きな変化とともに、これまで、ずっと求められてきた課題であり、「父親の出番」を通して、ご近所とのつながりを持つことが出来る、大人社会の課題の一つでもある。
5. 中学生の「ホッとできる安心した居場所」は「ある」の全体的な回答が8割であった。
具体的な居場所の回答で、一番多い回答順に、「家庭」、次に「自分の部屋」、「友達のいる場所」「部活やサークル活動」であった。
家庭内で、孤立することなく、常に家庭内の環境を工夫し、大人社会が、常に身近な地域とつなげる努力が求められる。
6. かなり、中学生になると、家族から友人関係へと人間関係が広がっている。こうした中で、女性は、少人数の人間関係を求めている回答だが、男性は、集団的な交友関係をもとうとする傾向の調査結果である。
常に、家庭環境を整えていく中で、望ましい交友関係に発展することを期待したい。
7. 友人の悩みを、どのように受け止めることが出来るかの回答では、児童対象の調査結果より、「話を聞く」84%は、中学生の回答は、5%高い回答結果である。
また「わからない」も、減少傾向の回答結果であり、はるかに、社会的役割を持った対応に、大きく変化していることがわかる。
男女別回答で、顕著な回答結果となっているのは、女性は、「話を聞く」回答が86%と高いが、男性は82%で、女性の方が、社会性があり、コミュニケーション面での大きな開きが伺える。
その結果、男性は、「ほかの友だちや大人につなげる」「何もしない」の回答結果の傾向である。

3. 家庭・家族に関すること(設問11～設問15までの5つの設問)

ここでは、35の設問項目のうち、「家庭・家族に関すること」に関して、

設問11 あなたは、家族と話をしますか。(◆-3)

設問12 設問11で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを3つまでお答えください。

設問13 設問11で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。(◆-4)

設問14 あなたは、家の手伝いをしますか。(◆-5)

設問15 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。(◆-6)

の5つの設問の回答結果をまとめた。

設問11 あなたは、家族と話をしますか。(◆-3)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問11 あなたは、家族と話をしますか。	よく話をする	119  74%	156  83%	275  79%
	たまに話をする	41  25%	29  16%	70  20%
	ほとんど話をしない	1  1%	2  1%	3  1%
小計		161	187	348

家族との会話について、全体的な回答結果から、「よく話をする」79%、「たまに話をする」20%と、「話をする」回答が99%と、家族とのコミュニケーションは十分行われている回答結果である。語れる家族家庭環境にはあるが、「たまに話をする」20%から、さらに、大人社会の歩み寄りの工夫が必要と感じる。男女別では、男性74%に対して、女性83%と、女性の方が、会話の機会が多い。学年別では、1年生82%、3年生80%に対して、2年生は76%と、やや消極的な結果である。家族構成別では、大きな開きはないが、やや、親子別では、祖父母同居別よりも、会話が多い傾向がある。兄弟姉妹別では、多くなるに従い、会話の機会が多い傾向がみられる。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①よく話をする	81%	79% ↓
②たまに話をする	17%	20% ↑
③ほとんど話をしない	2%	1% ↓

※成長とともに、家族と会話をする家庭環境は減少傾向にある。

設問12 設問11で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを3つまでお答えください。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問12 設問11で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを3つまでお答えください。	学校であったこと	122  33%	161  35%	283  34%
	テレビ番組や雑誌などのこと	53  14%	67  14%	120  14%
	趣味や遊びのこと	75  20%	65  14%	140  17%
	社会の出来事	18  5%	22  5%	40  5%
	親や祖父母のこと	2  1%	4  1%	6  1%
	家族のこと	23  6%	16  3%	39  5%
	家族の健康・介護等のこと	2  1%	0  0%	2  0%
	近所の出来事	10  3%	5  1%	15  2%
	自分の悩み	5  1%	10  2%	15  2%
	将来のこと(進路)	12  3%	25  5%	37  4%
	友人・知人のこと	41  11%	74  16%	115  14%
	SNS	5  1%	14  3%	19  2%
	その他	1  0%	3  1%	4  0%
小計		369	466	835

「家族とよく話をする」「たまに話をする」回答者から、どのような内容の話かの全体的な回答結果の多い順にあげると、「学校であったこと」34%、「趣味や遊びのこと」17%、「テレビや雑誌などのこと」「友人・知人のこと」各14%、「社会の出来事」「家族のこと」各5%、「将来(進路)のこと」4%、「SNS」「自分の悩み」「近所の出来事」各2%。今日では、社会の流れの中で、家族内での話題に「SNS」が浮かび上がっている。

何気ない、家族との会話により、社会に向けた広がりを感じたい。

男女別では、大きな開きはないが、「友人・知人のこと」は、女性の方が多く、「趣味や遊びのこと」では、男性の回答が多い。学年別・家族構成別・兄弟姉妹別では、全体の回答と大きな変化はない。

設問 13 設問 11 で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。

主なものを3つまでお答えください。(◆-4)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問13	設問11.で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。			
	勉強が忙しくて、家族と話したくない	0 0%	0 0%	0 0%
	何を話していいのかわからない	1 33%	1 50%	2 40%
	習いごと(部活)が忙しくて話す時間が無い	2 67%	0 0%	2 40%
	その他	0 0%	1 50%	1 20%
	小計	3	2	5

「家族とほとんど話をしない」1% (約5名)の生徒の回答から、「何を話していいのかわからない」「話したくない」各40%、「習いごと(部活)が忙しくて話す時間が無い」20%。男性は、「何を話していいのかわからない」67%、女性は、「話したくない」「習いごと(部活)が忙しくて話す時間が無い」各40%の回答であった。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果(この時も2%)と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①勉強が忙しくて、家族と話す時間が無い	11%	0% ↓
②話したくない	33%	40% ↗
③何を話していいのかわからない	33%	40% ↗
④習いごと(部活)が忙しくて話す時間が無い	11%	20% ↗
⑤その他	11%	0% ↓

※小学生と中学生を比較すると、中学生は、成長期とともに、家族と話をしない理由が分散している。

設問 14 あなたは、家の手伝いをしますか。(◆-6)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問14	あなたは、家の手伝いをしますか。			
	ほぼ毎日手伝っている	21 13%	32 17%	53 15%
	ときどき手伝っている	74 46%	88 47%	162 46%
	言われた時だけ手伝う	56 35%	60 32%	116 33%
	ほとんど手伝わない	11 7%	7 4%	18 5%
	小計	162	187	349

この設問は、中学生を取り巻く環境(「勉強」「部活」等)と、共働きの大人社会の中で、「手伝い」を家庭生活の中に、どのように位置づけているかを問いかけた。

全体的な回答結果からは、「ほぼ毎日手伝っている」15%、「ときどき手伝っている」46%と、「手伝い」が家庭環境の中に位置づけられている(約6割)ことが把握できた。

男女別の回答結果では、「ほぼ毎日手伝っている」「ときどき手伝っている」を合わせると、男性59%に対して、女性64%と、女性の方が「手伝い」に積極的である回答結果である。

学年別では、大きな開きはない。家族構成別では、「親と子どもだけで暮らしている」環境の中学生は、親の就労状況を読み取り、「手伝い」を認識している回答と受け止めることができる。

兄弟姉妹別では、2人が手伝いをする回答が多い。次に、4人以上、1人・3人の順。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①ほぼ毎日手伝っている	27%	15% ↓
②ときどき手伝っている	45%	46% ↗
③言われた時だけ手伝う	24%	33% ↗
④ほとんど手伝わない	3%	5% ↗

※小学生と中学生の生活環境の違いから、「手伝い」の位置づけが大きく変化をしている。

設問 15 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。(◆-7)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問15 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。	楽しく過ごしている	79 50%	95 52%	174 51%
	まあまあ楽しく過ごしています	70 43%	77 43%	147 43%
	どちらかといえば楽しく過ごしていません	5 3%	1 1%	6 2%
	楽しくない	1 1%	1 1%	2 1%
	どちらともいえない	2 1%	7 4%	9 3%
小計		157	181	338

中学生の生活基盤である「家庭環境」についての問いに対して、全体的な回答結果は「楽しい」51%、「まあまあ楽しい」43%と「楽しい」家庭環境である回答は94%で、中学生の家庭環境の明るさを読み取ることができる。「どちらともいえない」3%「どちらかといえば楽しく過ごしていない」2%、「楽しくない」1%は、今後に向けて、大人社会に対する課題とも受け止められる。

「楽しくない」2%は、前述（設問11）の「家族とほとんど話さない」1%と符合する回答状況でもある。男女別では、「楽しく過ごしている」「まあまあ楽しく過ごしている」を合わせると、男性95%、女性95%と、同じ回答結果である。

学年別では、「楽しい」「まあまあ楽しく過ごしている」を合わせると、1年生95%、2年生93%、3年生96%と、ほぼ同じ回答結果である。

		人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問15 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。	楽しく過ごしている	60 52%	62 50%	52 51%			
	まあまあ楽しく過ごしています	50 43%	53 43%	45 45%			
	どちらかといえば楽しく過ごしていません	1 1%	4 3%	1 1%			
	楽しくない	0 0%	1 1%	1 1%			
	どちらともいえない	4 3%	3 2%	2 2%			
小計		115	123	101			

家族構成別では、「親と子だけで暮らしている」生活環境の中学生は、「楽しい」96%が読み取れる。「祖父母と一緒に暮らしている」中学生の回答は91%。

		人数 祖父母と一緒に暮らしている	人数 親と子どもだけで暮らしている	人数	その他
設問15 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。	楽しく過ごしている	40 43%	131 55%	2 67%	
	まあまあ楽しく過ごしています	46 49%	98 41%	1 33%	
	どちらかといえば楽しく過ごしていません	2 2%	4 2%	0 0%	
	楽しくない	0 0%	2 1%	0 0%	
	どちらともいえない	5 5%	4 2%	0 0%	
小計		93	239	3	

兄弟姉妹別では、1人36%、2人54%、3人49%、4人以上56%と、全体的には、兄弟姉妹が多くなると、やや「楽しい」家庭環境の傾向になる回答結果である。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①楽しく過ごしている	72%	51% ↘
②まあまあ楽しく過ごしている	25%	43% ↗
③どちらかといえば、楽しく過ごしていない	1%	2% ↗
④楽しくない	1%	1% →
⑤どちらともいえない	1%	3% ↗

※全体的な比較では、やや、成長とともに「楽しい」家庭環境に、変化が生じている。

大人社会に近づく、中学生の成長過程と受け止めることが出来るように感じる。

家庭・家族に関する回答結果から見たもの

1. 家庭・家族との会話は良好な環境を維持し、楽しい、語れる家庭環境にあることが理解できた。
 主な会話の内容は、「学校であったこと」「趣味や遊びのこと」「テレビや雑誌などのこと」が多い回答内容。
 何気ない 語れる環境から、成長に伴う、内面的な話し合いが出来る環境維持の工夫が求められる。
 更に、大人社会の中学生への歩み寄り、特に男性に対して、成長とともに、より工夫が必要と感じる。
 家族構成別では、小学生とは異なり、親子での暮らしの方が、祖父母同居よりも会話が多い傾向が伺えた。
2. 大人社会の共働き時代における家庭環境の中で、「手伝い」の位置づけを問い質した結果、「前向きに手伝いをする」60%の回答であった。小学生の時から、成長とともに、家庭環境における「手伝い」の位置づけは、薄くなっている傾向にもある。 家族・家庭の認識と関わりにより、中学生の貢献度が生み出されることを期待したい。 ここでも、女性の積極的な取り組みが伺えた。
 家庭環境においては、男性には、会話とともに、手伝いの働きかけをこれから、大人社会は心掛けたい。

4. 地域社会・地域活動に関すること（設問 16～設問 29 までの 14 の設問）

ここでは、35の設問項目のうち、「地域社会・地域活動に関すること」について、

設問 16 あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか。

設問 17 あなたは、自分の住んでいる地域の人々との交流について、どのようにお考えですか。

設問 18 あなたの地域は、「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。

設問 19 あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。

(◆-7)

設問 20 あなたは、他人のために何かをしたいと思いますか。

設問 21 あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。

設問 22 あなたは、地域(自治会・町内会)が行うイベントによく参加していますか。(◆-8)

設問 23 設問 22 で「①よく参加している」、「②ある程度参加している」と答えた人に聞きます。

主なものを3つまでお答えください。

設問 24 設問 22 で「③あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人に聞きます。

主なものを2つまでお答えください。

設問 25 あなたの住んでいる地域は、良い地域だと思いますか。(◆-9)

設問 26 設問 25 で「①とても良い」、「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか、主なものを3つまでお答えください。(◆-10)

設問 27 設問 25 で「③あまり良くない」、「④良くない」と答えた人に聞きます。どんな点が良くないか
 主なものを3つまでお答えください。(◆-11)

設問 28 あなたは、地域(自治会・町内会等)の行事の参加への呼びかけがあれば参加しますか。(◆-12)

設問 29 あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。

の14の設問の回答結果をまとめた。(◆-13)

設問 16 あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
設問16	あなたは、自分の住んでい	42	26%	51	27%	93	27%
	る地域の「自治会・町内	118	74%	136	73%	254	73%
	会・組」の名称を知ってい						
	ますか	小計	160	187	347		

日常的な地域活動の他、防災訓練等有事の際や地区別行事等では、よく、会場において、地区住民の所属を明示する必要がある。家庭内で、日頃から、家族が所属している地区の名称を確認しているか、果たして中学生は、どの程度認識しているかを問う設問項目である。

全体的な回答結果では、「知らない」73%であった。男性・女性とも、ほぼ同じ回答結果であった。それでも、27%の中学生は、地域の所属認識がある回答結果である。

学年別では、「知っている」の回答は、1年生24%、2年生29%、3年生28%と、学年が上がるほど理解している回答結果である。家族構成別では、「知っている」回答は、「祖父母と一緒に暮らしている」中学生は30%で、「親と子だけで暮らしている」中学生は25%と、やや、「祖父母と一緒に暮らしている」中学生の方が、認識度は高い。

日頃から「祖父母」の地域の話が、中学生には伝わっているようにも受け止められる。

大人社会は、日常生活の中で、中学生に、日頃から地域を語り、地域環境を伝える課題がある。

設問17 あなたは、自分の住んでいる地域の人々との交流について、どのようにお考えですか。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問17	あなたは、自分の住	73	82	155
	んでいる地域の人々	45%	44%	45%
	との交流について、	71	89	160
	どのようにお考えで	44%	48%	46%
すか。	16	13	29	
	あまり大切だとは思わない	10%	7%	8%
	まったく大切だとは思わない	1	2	3
	小計	161	186	347

全体的な回答結果は、「地域の人々との交流は大切である」45%、「地域の人々との交流はどちらかと言えば大切である」46%で、「地域の人々との交流は大切である」91%の回答である。

回答結果から、地域の一員としての自覚を感じ、さらに、「地域愛」につながることを期待したい。

男女別では、「地域との交流は大切」女性92%、男性89%よりも、女性92%の方が、高い認識をもっている回答。約1割の中学生の回答は「地域の人々との交流」は、大切と思わない回答。

学年別では、やや2年生の意識が高い。

家族構成別では、「祖父母との暮らし」95%は、「親子の暮らし」89%よりも、地域の人々との交流の大切さの認識は高い。

設問18 あなたの地域は、「高齢者一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問18	あなたの地域は、	27	25	52
	「高齢者等一人でも	17%	13%	15%
	安心して暮らせる地	81	107	188
	域である」と思いま	51%	54%	53%
	すか。	28	32	60
	あまり思っていない	18%	16%	17%
	まったく思っていない	1	5	6
	わからない	23	28	51
	小計	160	197	357

		人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問18	あなたの地域は、	24	19%	16	13%	13	13%
	「高齢者等一人でも	62	48%	76	61%	50	48%
	安心して暮らせる地	22	17%	10	8%	28	27%
	域である」と思いま	4	3%	1	1%	1	1%
	すか。	17	13%	22	18%	12	12%
	わからない	17	13%	22	18%	12	12%
	小計	129		125		104	

		人数	祖父母と一緒に暮らしている	人数	親と子どもだけで暮らしている	人数	その他
設問18	あなたの地域は、「高	13	14%	36	14%	2	50%
	齢者等一人でも安心し	53	56%	134	52%	0	0%
	て暮らせる地域であ	18	19%	39	15%	2	50%
	る」と思いますか。	0	0%	6	2%	0	0%
		わからない	10	11%	41	16%	0
	小計	94		256		4	

高齢者を取り巻く様々な課題が浮き彫りになっている超高齢社会の今日、中学生の意識を求めると、全体的な回答では、「強く思っている」15%、「少し思っている」53%と、高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である回答は68%、「思っていない」回答が32%。

まだまだ、高齢者を取り巻く地域の課題を中学生は、しっかりと認識している回答でもある。

男女別では、男性も女性も、同じ割合で、地域社会に向けた課題を提起した回答である。

学年別では、3年生は、安心した地域の回答が61%と、課題提起をより強めた回答である。

1年生67%、2年生74%の回答。

家族構成別では、祖父母と暮らしている現状からの回答は、安心した地域70%と、親子で暮らしている中学生66%よりも高い回答である。対地域への問題提起よりも、身近な、現実の家庭環境からの回答とも受け止められる。

設問19 あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。(◆-7)

		人数 男性		人数 女性		人数 全体	
設問19 あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。	電車やバスの中で席を譲る	60	21%	83	24%	143	23%
	点字ブロックの上に自転車を置かない	40	14%	64	18%	104	16%
	体の不自由な人に道路を譲る	28	10%	40	12%	68	11%
	困っている人に声をかける	36	13%	39	11%	75	12%
	自分から進んであいさつをする	91	32%	102	29%	193	30%
	わからない	16	6%	10	3%	26	4%
	特に何もしない	16	6%	8	2%	24	4%
	その他	1	0%	0	0%	1	0%
小計		288		346		634	

日頃、身近な地域で、中学生は、どのようなことに心掛けているかを問い質した。

全体の回答結果では、「自分から進んであいさつをする」30%で一番多い回答である。男女別では、男性32%に対して、女性29%の回答。学年別では、「自分から進んであいさつをする」は、やや2年生の回答が低いが、挨拶、声掛け等の広がり、積極的な回答である。

コミュニティの中では、「あいさつ」は基本的な行為であり、明るい住み良い地域を期待したい。

次に回答が多かったのは、「電車やバスの中で席を譲る」23%、次に「点字ブロックの上に自転車を置かない」16%、「困っている人に声をかける」12%、「体の不自由な人に道路を譲る」11%、「わからない」「特に何もしない」各4%の回答順であった。

「わからない」「特に何もしない」層に対しては、中学生同士の日頃の生活の中で話し合いをしながら、地域の課題を共有し考える機会が出来る環境を、大人社会が働きかけたい。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①電車やバスの中で席を譲る	11%	23% ↗
②点字ブロックの上に自転車を置かない	13%	16% ↗
③体の不自由な人に道路を譲る	8%	11% ↗
④困っている人に声をかける	14%	12% ↘
⑤自分から進んであいさつをする	43%	30% ↘
⑥わからない	7%	4% ↘
⑦特に何もしない	4%	4% →
⑧その他	1%	0% ↘

※成長とともに、恥ずかしさや人を見る目も加わり、「自分から進んであいさつをする」回答は、大きな開きがある。また、「困っている人に声を掛ける」も減少傾向。

設問20 あなたは、他人のために何かをしたいと思いますか。

地域社会への貢献度について問い質した結果、全体的な回答結果では、「そう思う」71%、「そう思わない」6%、「どちらともいえない」15%、「わからない」8%の結果だった。

約3割は、意思表示が出来かねる回答。地域の動きに関心を持つことを期待したい。設問03「趣味や特技を地域に活かす」回答は約5割であった。地域の現状を理解したうえで、積極的な地域貢献を期待したい。男女別回答では、女性の方が74%と、男性の67%を大きく上回る回答。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問20	あなたは、他人のために何かをしたいと思いませんか。			
	そう思う	108 67%	137 74%	245 71%
	そう思わない	12 7%	10 5%	22 6%
	どちらともいえない	27 17%	24 13%	51 15%
	わからない	14 9%	15 8%	29 8%
	小計	161	186	347

学年別回答結果では、「そう思う」1年生74%、2年生68%、3年生69%、「どちらともいえない」1年生13%、2年生17%、3年生15%と、成長するとともに、現実の社会を認識しながら、慎重に回答しているように感じる。

設問21 あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問21	あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。			
	自分から進んでしている	106 66%	110 59%	216 62%
	相手がしたときはする	49 30%	69 37%	118 34%
	しない	4 2%	3 2%	7 2%
	その他	2 1%	4 2%	6 2%
	小計	161	186	347

全体的な回答結果では、「自分から進んでしている」62%、「相手がしたときはする」34%、「しない」2%、「その他」2%。中学生として、積極的に、ご近所と関わりをもとうと努力している反面、大人社会の働きかけの状況で関わりをもとうとしている一面が伺える。

		人数 1年生	人数 2年生	人数 3年生
設問21	あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。			
	自分から進んでしている	70 59%	83 66%	64 62%
	相手がしたときはする	45 38%	38 30%	35 34%
	しない	2 2%	2 2%	3 3%
	その他	2 2%	3 2%	1 1%
	小計	119	126	103

学年別回答では、2年生が積極的な一面が伺える。次に、3年生、1年生の順の回答である。

身近な顔が見える関係のご近所においては、大人社会が中学生に積極的な働きかけをする課題がある。

設問22 あなたは、地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。（◆-8）

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問22	あなたは、地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。			
	よく参加している	30 19%	20 11%	50 14%
	ある程度参加している	58 36%	81 44%	139 40%
	あまり参加していない	60 37%	70 38%	130 38%
	まったく参加していない	13 8%	13 7%	26 8%
	小計	161	184	345

身近な地域への関わり合いの全体的な回答結果は、「ある程度参加している」40%、「あまり参加していない」38%、次に、「よく参加している」14%、「まったく参加していない」8%。

「参加している」回答が54%、「参加していない」46%で、調査結果からは、中学生の地域行事等への参加は、前向きな傾向が伺える。

設問16「あなたは、自分の住んでいる地域の自治会・町内会・組の名称を知っていますか。」との関連付けた考察として、中学生には、更に、大人社会が中学生に働きかけていく課題とも受け止められる。

男女別では、ほぼ同じ回答状況。学年別では、学年が上がるに従い、地域活動参加は消極的傾向にある。

家族構成別では、「親と子ども」の方が参加傾向にある。兄弟姉妹が多い中学生の地域参加が積極的な傾向が伺える。

こうした回答結果から、身近な地域社会の動きを、日頃から、家庭・家族の中で話題を広げ、共有していく環境を期待したい。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①よく参加している	35%	14% ↓
②ある程度している	39%	40% ↑
③あまり参加していない	15%	38% ↑
④まったく参加していない	10%	8% ↓

※中学生になると、「地域参加」は消極的であることがよくわかる。

設問 23 設問 22 で「①よく参加している」、「②ある程度している」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体		
設問23 設問22で「①よく参加している」、「②ある程度している」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。	環境・美化活動	34	17%	35	15%	69
	資源回収活動	25	12%	35	15%	60
	青少年活動(子ども会支援等)	4	2%	8	3%	12
	地域のスポーツ大会	13	6%	18	8%	31
	地域のお祭り	73	36%	76	32%	149
	防災訓練	49	24%	53	23%	102
	福祉イベントの手伝い(居宅)	3	1%	5	2%	8
	研修会・講座の手伝い	1	0%	1	0%	2
	学習支援	0	0%	4	2%	4
	その他	0	0%	0	0%	0
	小計	202		235		437

「地域イベントに参加している」54%(189名)の全体的な回答を多い順にあげると、

①地域のお祭り34%、②防災訓練23%、③環境美化活動16%、④資源回収活動14%、⑤地域のスポーツ大会7%、⑥青少年活動(子供会支援等)3%、⑦福祉イベントの手伝い2%、⑧学習支援1%。

男女別、学年別、家族別、兄弟姉妹別ともに、全体的と同じ回答状況。

日頃から、地域全体で、積極的な参加を呼び掛けている「地域のお祭り」「防災訓練」「環境美化活動」等への参加の回答が多い。

設問 24 設問 22 で「③あまり参加していない」、「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。主なものを2つまでお答えください。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体		
設問24 設問22で「③あまり参加していない」、「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。主なものを2つまでお答えください。	時間が無い	33	35%	33	28%	66
	興味がわからない	14	15%	16	14%	30
	身近な情報がない	11	12%	15	13%	26
	参加のきっかけがない	17	18%	24	21%	41
	参加したいと思わない	8	8%	12	10%	20
	自分にはあわない	1	1%	4	3%	5
	一緒に参加できる仲間がいな	11	12%	12	10%	23
	その他	0	0%	1	1%	1
小計	95		117		212	

「地域のイベントに参加をしない」46%(156名)の参加しない理由の全体的な回答を多い順にあげると、①「時間が無い」31%、②「参加のきっかけがない」19%、③「興味がわからない」14%、④「身近な情報がない」12%、⑤「一緒に参加する仲間がいな」11%、⑥「参加したいと思わない」9%、⑦「自分にはあわない」2%。

あげられた回答内容から、地域(自治会組織)と家庭・家族間をいかにつなぐか、また、中学生を含めた大人社会が、積極的に参加できる地域行事のあり方を工夫すること、幅広い世代が参加できる地域行事をわかりやすく広報啓発し、更には、中学生から積極的に意見を求め、その意見を反映できる地域行事の企画運営につなげることが、これからの地域づくりの課題でもある。学年別、男女別、家族構成別、兄弟姉妹別等の領域では、全体的な回答「時間が無い」が同じく多い回答内容であった。

設問 25 あなたが住んでいる地域は、良い地域だと思いますか。(◆-9)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問25 あなたが住んでいる地域は、良い地域だと思いますか。	とても良い	51 32%	51 27%	102 29%
	良い	106 66%	121 64%	227 65%
	あまり良くない	4 2%	13 7%	17 5%
	よくない	0 0%	3 2%	3 1%
小計		161	188	349

ここでは、回答した中学生のそれぞれの地域の良さを問い質した。

全体的な回答結果では、「とても良い」29%、「良い」65%と、「良い地域」との回答は94%と高い。

「あまり良くない」5%、「良くない」1%であった。

中学生にとって、自分の住んでいる地域は、「良い地域」と回答していることについて、常に、大人社会が地域社会を維持し、努力している一面が伺える。また、中学生にとっては、成長段階における貴重な社会体験の学び合いの機会にもなっている。しかし、厳しいコロナ禍下にあって、これまでの調査「ご近所福祉その意識と実態調査」結果では、大人社会の地域コミュニティへの希薄化が浮き彫りになっている。中学生が望む「地域の良さ」を大人社会は、さらに努力し、福祉を育む地域づくりに向けて、積極的に取り組みことが求められる。

地域の状況が「わからない」回答については、常に、大人社会が、地域とのつながりを持ち、中学生に積極的に地域を知る機会を提供することが大切である。

男女別、学年別、家族構成別ともに、9割以上が「良い地域」の回答をしている。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①とても良い	47%	29% ↓
②良い	45%	65% ↑
③あまり良くない	2%	5% ↑
④よくない	0%	1% ↑

※ ⑤わからない 5%

※ 設問項目なし

※全体的な比較では、「良い地域」と受け止めているが、やや、成長とともに、実社会に向けた受け止め方に変化がみられる。

設問 26 設問 25 で「①とても良い」、「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか、主なものを3つまでお答えください。(◆-10)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問26 設問25で「①とても良い」、「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか、主なものを3つまでお答えください。	自然が多い	81 23%	73 19%	154 21%
	ご近所の付き合いがよい	68 19%	91 23%	159 21%
	犯罪が少ない	53 15%	49 13%	102 14%
	交通事故が少ない	20 6%	23 6%	43 6%
	静かな地域	55 16%	61 16%	116 16%
	地域の行事が多い	16 5%	26 7%	42 6%
	交通の便が良い	17 5%	12 3%	29 4%
	公園等がある	37 11%	55 14%	92 12%
	その他	2 1%	2 1%	4 1%
小計		349	392	741

ここでは、設問 25 に関連して、「地域の良さ」を回答した具体的な内容である。

全体的な回答で多い順にあげると、「ご近所の付き合いがよい」「自然が多い」各21%、次に、「静かな場所」16%、「犯罪が少ない」14%、「公園等がある」12%、「交通事故が少ない」「地域の行事が多い」各6%、「交通の便が良い」4%、「その他」1%。

男女別回答は、男性の回答の多い内容は「自然が多い」23%に対して、女性は「ご近所の付き合いがよい」23%と、女性は、身近な地域の人間関係を細かく受け止めている一面が伺える。学年別でも、1年生・3年生は、「ご近所の付き合いがよい」の回答が一番多い。家族別では、「祖父母と一緒に暮らす」中学生は、「ご近所の付き合いがよい」回答が一番多いが、「親子で暮らす」中学生は、やや「自然が多い」回答をしている。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①自然が多い	21%	21% →
②ご近所の付き合いがよい	28%	21% ↘
③犯罪が少ない	11%	14% ↗
④交通事故が少ない	5%	6% ↗
⑤静かな地域	10%	16% ↗
⑥地域の行事が多い	5%	6% ↗
⑦交通の便が良い	3%	4% ↗
⑧公園等がある(遊ぶ場所がある)	15%	12% ↘
⑨その他	2%	1% ↘

※成長とともに、地域を見る目に、少し変化が伺える。

「ご近所の付き合いが良い」は、中学生の回答結果では多いが、小学生との比較では、中学生の日常的な地域との関わりが少ないところから、より現実的な視点からの回答結果のようにも感じる。

いずれにしても、小学生及び中学生の回答結果から、「ご近所の付き合いがよい」が一番多い回答であり、「自然が多い」がいずれも2番目に多い回答結果である。

設問 27 設問 25 で「③あまり良くない」、「④良くない」と答えた人に聞きます。どんな点が良くないか、主なものを3つまでお答えください。(◆-11)

設問27	設問25で「③あまり良くない」、「④良くない」と答えた人に聞きます。どんな点が良くないか、主なものを3つまでお答えください。	人数 男性	人数 女性	人数 全体
	自然が少ない	1	3	5%
	近所の人と交流がない	1	9	23%
	犯罪が多い	0	2	5%
	交通事故が多い	2	3	11%
	騒音がうるさい	2	5	16%
	地域の行事が少ない	0	3	7%
	交通の便が悪い	1	6	16%
	公園等がない	2	4	14%
	その他	1	1	5%
小計		10	34	44

設問 25 に関連して、「住んでいる地域が良くない」と回答した6%(20名)の回答内容を全体的にみると「近所の人との交流がない」23%と高い回答は、地域性が浮き彫りになっていると感じる。

次に、「交通の便が悪い」「騒音がうるさい」各16%、「公園等がない」14%、「交通事故が多い」11%、「地域の行事が少ない」7%、「その他」「自然が少ない」「犯罪が多い」各5%。男女別では、女性は、「近所の人との交流がない」26%とが一番多い回答。

男性は、「公園等が少ない」「交通事故が多い」「騒音がうるさい」各20%と多い回答内容である。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①自然が少ない	17%	5% ↘
②近所の人と交流がない	0%	23% ↑
③犯罪が多い	4%	5% ↗
④交通事故が多い	8%	11% ↗
⑤騒音がうるさい	33%	16% ↘
⑥地域の行事が少ない	8%	7% ↘
⑦交通の便が悪い	4%	16% ↗
⑧公園等がない	13%	14% ↗
⑨その他	8%	5% ↘

※小学生の回答の多い結果では、「騒音がうるさい」33%、「自然が少ない」17%、「公園等がない」13%。中学生の回答の中で、一番高い回答は、「近所の人と交流がない」23%次に、「騒音がうるさい」「交通の便悪い」各16%であった。

中学生は、地域社会における、ご近所の付き合い等、人間関係に目を向けていることが伺える。

設問 28 あなたは、地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか。

		人数 男性	人数 女性	人数 全体		
設問28	あなたは、地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか。	27	26	53	15%	
	ぜひ参加したい	102	132	234	63%	66%
	出来る範囲で参加したい	15	16	31	9%	9%
	参加したくない	19	18	37	12%	10%
	わからない	小計	163	192	355	

中学生が、身近な地域社会をどのように捉え、どのように関わりを持ち、地域参加しようとしているかを問い質した項目である。この設問項目は、今回の調査活動の重点的設問項目の一つでもある。

厳しいコロナ禍下、閉鎖的な地域環境により、地域社会全体の活動範囲が制約され、積極的な地域活動が阻止されてきた中で、これからの地域参加について、開放的な地域環境を期待し、積極的な地域参加を望んでいるかの全体的な回答結果では、「地域参加」を「ぜひ参加したい」と回答した中学生は15%。「できる範囲で参加したい」回答は66%で、「参加する意向」の回答は81%であった。「参加をしない」回答は19%である。

男性の80%に対して、女性は83%と、女性の方が、やや地域参加の機会を求めている傾向にある。

学年別では、参加する傾向は、1年生93%、2年生79%、3年生72%と、学年が上がるにつれて、消極的な回答結果である。家族構成別では、親と子どもだけの家族の方が、祖父母と一緒に家族よりも、地域参加は積極的である。兄弟姉妹別等の回答結果は、4人以上が、地域参加は積極的な回答であった。

厳しい地域社会状況からの回答結果と受け止めるとともに、地域社会の、もう一つ考察していきたい一面として、「地域の行事の魅力」を取り上げていきたい。中学生の持ち味や、関心を持つ行事であるかの評価・見直し等、再検討も課題としたい。大人社会中心に取り組んできた地域の行事から、広く中学生等の意見を組み入れた行事の工夫等、大人社会は、これからの地域づくりに向けて、心掛けていくべき課題として提起したい。

世代を超えた交流できる地域行事、また、若い世代主体の運営による地域行事の工夫は、近い将来につながり、若者の地域離れを防ぎ、大人社会と若者社会の融合によるまちづくりにつながる、意識を高める一つになると考える。「参加しない」「わからない」19%の回答からも、具体的に、考察していく課題でもある。

◆今回の調査結果を、2年前前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①ぜひ参加したい	28%	15% ↓
②出来る範囲で参加したい	53%	66% ↑
③参加したくない	7%	9% ↑
④わからない	12%	10% ↓

※小学生との比較では、「参加の意向」は、小学生81%、中学生81%と同じ回答結果である。

こうした、回答結果から、考察出来ることは、大人社会に向かって成長している中学生も、地域参加の意向をしっかりと持っていることが伺える。

設問 29 あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。(◆-13)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体		
設問29	あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。	117	129	246	31%	29%
	家族	80	98	178	21%	21%
	友だち	22	26	48	6%	6%
	ラジオ・テレビ	38	40	78	10%	9%
	インターネット	4	8	12	1%	1%
	新聞	7	7	14	2%	2%
	市広報誌	41	71	112	11%	13%
	回覧板	48	63	111	13%	13%
	学校	6	3	9	2%	1%
	公民館だより	3	1	4	1%	0%
	スーパー・商店等の掲示板	3	2	5	1%	1%
	自治会・町内会発行広報誌	4	4	8	1%	1%
	口コミ	6	9	15	2%	2%
	チラシ	0	2	2	0%	0%
	その他	小計	379	463	842	

この設問も、今回の調査活動の重点的設問項目と捉えたい。

ネット時代を迎え、果たして、中学生は、身近な地域の情報をどのように得ているか、新たな情報時代に向けた関心ごとでもある。

全体的な回答結果では、「家族」29%、「友だち」21%、「学校」、「回覧板」各13%、「インターネット」9%、「ラジオ・テレビ」6%、「市広報誌」「チラシ」各2%、「公民館だより」「新聞」「自治会・町内会広報誌」「ロコミ」各1%の順であった。男女別回答では、大きな変化はないが、女性の方が「回覧板」の回答が多い。大人社会で、とかく課題として取り上げられている「回覧板」を、男性11%に対して、女性15%と、地域の情報入手の一つとして回答されていることに注目したい。

「回覧板」の回答が意外と多かったことは、身近な情報を、中学生も「回覧板」に目を通すことが出来る家庭環境を維持していることが伺える。コミュニティ運営面では、今日、依然として重要な情報手段として取り組んでい「回覧板」を、今後、いかにして、回覧板機能を維持するか、家庭そして地域の課題の一つとして取り上げたい。

◆ 今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①家族	30%	29% ↓
②友だち	16%	21% ↑
③ラジオ・テレビ	17%	6% ↓
④インターネット	7%	9% ↑
⑤新聞	4%	1% ↓
⑥市広報誌	1%	2% ↑
⑦回覧板	7%	13% ↑
⑧学校	14%	13% ↓
⑨公民館だより	1%	1% →
⑩スーパー・商店等の掲示板	0%	0% →
⑪自治会・町内会発行広報誌	0%	1% ↑
⑫ロコミ	1%	1% →
⑬チラシ	1%	2% ↑
⑭その他	0%	0% →

※中学生は、成長とともに、交友関係が広がるにつれて、情報入手の状況は大きく変わっている。
小学生より、中学生は、「友人」「回覧板」「インターネット」からの情報入手が多いことが伺える。

地域社会・地域活動に関する回答結果から見えたもの

- ここでは、35の設問項目から、「地域社会、地域参加活動に関する」14の設問項目を基に、中学生の地域社会との関わりの中で、地域活動や取り巻く大人社会への問題提起とする考察をした。
- コミュニティ組織の運営について、大人社会が、日常生活の中で、日頃から、身近なご近所とのふれあい交流を通じて、中学生に、地域を語り、地域環境を伝え、中学生の地域所属意識が自然に認識できる地域環境に努めたい。
- 超高齢者社会の今日、高齢者や障がい者等、全ての人たちが暮らし合っている地域であることを理解し合う、実践的体験的地域ぐるみの福祉教育の地域環境を維持し、男性も、人々に思いやりの心が培える家庭環境に努め、身近なことにも歩み寄れるように心がけたい
- 中学生は、地域への貢献したい思いを持っている。この思いは、女性は男性よりも積極的な面が伺える。ここでも、男性も、積極的に、地域の課題を理解し合いながら、大人社会から、常に地域の現状を「見える化」「わかる化」していく中で、大人社会との共通理解に努めたい。
- ご近所との交流については、中学生は、積極的に関わりを持とうと努力している反面、大人社会に大きく左右されている状況も伺える。
大人社会が、日常的なご近所との関係を維持し、つなげる工夫が求められる。
- 今回の調査結果から、中学生は、身近な地域の行事への参加は54%の回答であった。
このたびの調査の大きな目的は、地域社会は、大いに中学生の地域参加を期待しながらも、調査結果から、現状は、小学生よりも、地域との繋がりが薄れている結果である。

その要因を、調査結果からみると、「時間的ゆとりがない(勉強・部活・塾等)」は十分理解してかなければならないが、「地域行事の魅力」の欠如(参加したいとは思わない)がある。また「参加のきっかけ」「参加できる環境」「わかりやすい情報」等、大人社会だけで企画運営する取り組みから、広く若い世代が参画できる環境醸成をつくり上げる根本的な課題が内在する。すぐに、こうした取り組みに移行すること、困難であると思われる。日頃のコミュニティ組織運営の中で、語れる環境を広げていく課題としていきたい。中学生に、地域からの行事の呼びかけの問いかけに「ぜひ参加したい」15%、「できる範囲で参加したい」66%の回答がある。この回答意見を、大人社会は、大いに活かせる働きかけを考えていきたい。

7. 自分の住んでいる地域は「良い」との回答が94%あった。この回答結果は、大人社会にとっては安心できる。この地域環境をさらに維持し、住みよい地域づくりを心掛けていきたい。具体的な住みよさは、「ご近所の付き合いが良い」「自然が多い」「静かな地域」「犯罪が少ない」「公園等がある」「交通事故が少ない」「地域の行事が多い」「交通の便が良い」等の意見があげられている。

福祉的な面から「ご近所の付き合いが良い」はホッとするが、小学生の回答と比較すると、回答が減少していることは、大人社会の現状の一面が見えているようにも感じる。

8. 今や、情報の多様化、複雑化等が進んでいる中で、中学生は、身近な地域の情報入手は、「家族」が一番多い回答であった。この意味から、まず、大人社会が、積極的に地域に関わり、地域の動きを知り、常に地域の情報を細かくわかりやすく、中学生に、日頃の家庭生活の中で話す環境をつくることが求められている。意外と、中学生は、小学生よりも「回覧板」からの情報入手を心得ている。

回覧板の必要性の有無が今日、コミュニティ組織の中で議論されているが、改めて、いかにして、継続的に有効活用できるかの課題は大きい。

5. 地域社会における福祉実体験に関すること

(設問 30～設問 34 までの5つの設問)

ここでは、35の設問項目のうち、「地域社会における福祉実体験に関すること」について、

設問 30 あなたは、身近な地域社会の日常的な生活の中で、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流をしたことがありますか(学校教育以外で)。(◆-14)

設問 31 あなたは、高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していくうえで、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを3つまでお答えください。

設問 32 あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。

設問 33 あなたの、地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか。主なものを3つまでお答えください。

設問 34 あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。(◆-15)

の5つの設問の回答結果をまとめた。

設問 30 あなたは、身近な地域社会の日常的な生活の中で、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流やボランティア活動をしたことがありますか(学校教育以外で)。(◆-14)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体				
設問30	あなたは、身近な地域社会の日常的な生活の中で、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流やボランティア活動を	ある	20	13%	31	17%	51	15%
	ない	140	88%	155	83%	295	85%	
小計		160		186		346		

身近な地域において、学校教育や、意図的なものではない、学校教育以外の、地域の日常生活を通じた福祉実体験の機会の場の有無を問い質した。

全体的な回答結果からは、「ある」の回答は15%、「ない」の回答は85%であった。

男女別では、女性の方が男性よりも、体験回答は多い。家族構成別では、親と子どもだけの家族の中学生の方が、体験があるとの回答が多い。学年別では、全体回答に同じ。

兄弟姉妹が多い環境では、多少実体験が多い回答結果である。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①ある	45%	15% ↓
②ない	55%	85% ↑

※小学生と中学生の比較では、小学生の回答結果は、学校教育との絡みの中で、意図的な実体験件数が含まれていた回答であった。今回の中学生の回答は、生徒自体の判断に基づく、日常的な生活の中での回答である。中学生は、生活全体に、時間的な制約や、大人社会に向けた成長過程における人間関係の距離感からか、大幅に減少の回答となっている。

「日常生活の中で、福祉体験がある」と回答した15%(51名)の中学生の具体的な内容をまとめると、

	活 動 内 容
1年生 男性	地域行事の手伝い(3) 親戚に障害者がいるから 放課後デイサービスのお手伝い 防災教室 ポッチャ体験会 文化祭手伝い 美化ボランティア 輪投げ大会手伝い
1年生 女性	保護犬活動(2) 居場所手伝い 海岸クリーン活動 地域行事の手伝い 地域の敬老会の手伝い 友達と高齢者の前でダンスを踊った 母が勤めている施設で手伝う ユニバーサルデザインを考えた 幼児との交流 幼稚園ボランティア
2年生 男性	地域の行事の手伝い(3) 認知症フォーラム参加(2) 高齢者や児童との交流活動 子どもたちと遊ぶ 高齢者施設で遊んだ 募金活動
2年生 女性	高齢者施設、障害者支援訪問(3) 敬老の日のイベント 障がいがある人とのレクリエーションを楽しむ デイサービスの手伝い 障がいのある方と遊ぶ
3年生 男性	兄が障がい者 ゴミの回収 清掃活動 地域の福祉活動
3年生 女性	高齢者施設・障害者支援訪問(4) 地域の夏祭りの手伝い(2) 地区の清掃活動 地域の交流事業参加 保育園訪問 保育士さんの手伝い 老人ホームで楽器演奏

※回答した中学生の活動内容を見ると、「身内福祉」「ご近所福祉」からの回答内容である。

「活動をしていない」と回答した中学生にも、上記の活動内容を、少なからず体験している地域環境にあるようにも伺える。

設問 31 あなたは、高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していく上で、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを3つまでお答えください。

この設問項目は、2020年度実施した大人対象調査事業「ご近所福祉 その意識と実態調査」と同じ設問項目である。実社会において、大人社会が取り上げられている福祉課題に対して、中学生は、どのように受け止めているかを問い質した。

設問31	あなた、高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していく上で、必要と思われる支援・サービスについて、 <u>主なものを3つまで</u> お答えください。	人数 男性		人数 女性		人数 全体	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
	見守り・声かけ(安否確認)	97	26%	114	24%	211	24%
	移動支援	42	11%	31	6%	73	8%
	買い物支援	40	11%	36	7%	76	9%
	配食	10	3%	9	2%	19	2%
	子育て支援	8	2%	14	3%	22	3%
	ゴミ出し	16	4%	17	4%	33	4%
	調理	6	2%	12	2%	18	2%
	定期的なふれあいサロン(非)	8	2%	30	6%	38	4%
	掃除(草取り)	17	5%	10	2%	27	3%
	災害時の手助け	49	13%	63	13%	112	13%
	話し相手	27	7%	54	11%	81	9%
	趣味・特技の援助	9	2%	16	3%	25	3%
	簡単な介助・介護	35	9%	62	13%	97	11%
	洗濯	2	1%	1	0%	3	0%
	ペットの世話	3	1%	4	1%	7	1%
	お墓の掃除	3	1%	7	1%	10	1%
	簡単な修理	3	1%	4	1%	7	1%
	その他	2	1%	1	0%	3	0%
	小計	377		485		862	

全体的な回答結果で、多い順では、「見守り・声掛け（安否確認）」24%、「災害時の手助け」13%、「簡単な介助・介護」11%、「買い物支援」「話し相手」各9%、「移動支援」8%、「ゴミ出し」「定期的なふれあいサロン（居場所）」各4%、「子育て支援」「掃除（草取り）」「趣味・特技の援助」各3%、「配食」「調理」2%、「ペットの世話」「お墓の掃除」「簡単な修理」各1%等があげられる。

男女別、学年別の結果も、ほぼ、全体的な回答結果に同じである。

◆今回の調査結果を、4年前大人対象に実施した「ご近所福祉その意識と実態調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。（○数字は、回答の多い順）

No.	内 容	2020年度(大人対象)	2023年度(中学生対象)
1	見守り・声掛け(安否確認)	26% ①	24% ① ↓
2	移動支援	9% ③	8% ⑥ ↓
3	買い物支援	9% ③	9% ④ →
4	配食	4% ⑧	2% ⑪ ↓
5	子育て支援	4% ⑧	3% ⑨ ↓
6	ゴミ出し	4% ⑧	4% ⑦ →
7	調理	1% ⑭	2% ⑪ ↑
8	定期的なふれあいサロン(居場所)	8% ⑤	4% ⑦ ↓
9	掃除(草取り)	3% ⑪	3% ⑨ →
10	災害時の手助け	15% ②	13% ② ↓
11	話し相手	7% ⑥	9% ④ ↑
12	趣味・特技の援助	2% ⑫	3% ⑩ →
13	簡単な介助・介護	6% ⑦	11% ③ ↑
14	洗濯	0%	0% ⑭ →
15	ペットの世話	0%	1% ⑬ ↑
16	お墓の掃除	0%	1% ⑬ ↑
17	簡単な修理	2% ⑫	1% ⑬ ↓
18	その他	0%	0% →

※大人対象の調査結果を見ると、「見守り・声掛け（安否確認）」「災害時の手助け」「買い物支援」「移動支援」「定期的なふれあいサロン（居場所）」「話し相手」「簡単な介助・介護」「配食」「子育て支援」「ゴミ出し」等があげられている。この回答結果から、中学生の回答と比較してみると、ほぼ、大人の回答と同じ状況であることがわかり、中学生は、地域社会の現状をしっかりと捉えているように感じる。

設問 32 あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。

これまでの設問項目結果から、大人社会への成長期にあって、中学生を取り巻く社会的な環境の中で、地域社会のさまざまな課題を認識し、また、中学生自身の社会的な立場や個人的な持ち味（趣味・特技）等をいかに、地域社会に向けて有効に活かすことが出来るかを問い質す設問項目として位置付けた。

全体的な回答結果から、前の設問項目 22 で、「地域行事に、まったく参加していない」回答が8%（26名）あることをふまえると、「参加したくない（関心がない）」4%は、判断できる範囲である。

ここでは、約94%が、前向きな回答をした内容の多い順にあげると、「特にないが、きっかけがあれば参加したい」22%で一番多い回答である。前の設問項目 03「趣味や特技を地域に活動に活かしたいと思うかの」の回答で「機会があれば、活かそうと思う」47%との関連性も伺えるような回答結果である。

ここから、将来に向けた、地域の活性化を考えると、大人社会は、常に若い年代層に向けて、地域の課題解決や、地域づくりに向けて、日頃から、「地域を見える化・わかる化」を心掛けて、誰もが地域参加しやすい環境に努め、若年代層からの提案を、積極的に取り入れるコミュニティ組織運営を心掛けていく課題がある。

前の設問項目 25・26・27 の「地域の良さ」にも、こうした回答結果は関連性を持っていると感じる。

中学生の持つ「趣味・特技」から、見えているのは「文化・芸術・スポーツに関する活動」28%は納得する回答である。そのほか、大人社会が日頃から、地域住民に呼びかけている「防災（災害）」6%、「地域社会・安全に関する活動」8%、「環境保全・自然保護に関する活動」5%、「まちづくり（コミュニティ活動）」8%を回答している。男女別、学年別の回答も、全体的な回答結果とほぼ同じ傾向である。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体		
設問32	あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。	まちづくり（コミュニティ）	18	10%	16	7%	34	8%
		地域安全・安心に関する活動	16	8%	17	7%	33	8%
		青少年健全育成活動	4	2%	1	0%	5	1%
		文化・芸術・スポーツに関する活動	65	34%	55	23%	120	28%
		生涯学習に関する活動	0	0%	4	2%	4	1%
		高齢者福祉に関する活動	3	2%	15	6%	18	4%
		障害福祉に関する活動	2	1%	6	3%	8	2%
		児童福祉に関する活動	2	1%	11	5%	13	3%
		地域福祉に関する活動	6	3%	8	3%	14	3%
		保健医療に関する活動	0	0%	3	1%	3	1%
		国際理解・交流に関する活動	2	1%	6	3%	8	2%
		環境保全・自然保護に関する活動	9	5%	14	6%	23	5%
		男女共同参画に関する活動	0	0%	1	0%	1	0%
		防災（災害）等に関する活動	11	6%	16	7%	27	6%
		特にないがきっかけがあれば	43	23%	51	22%	94	22%
		参加したくない（関心もない）	8	4%	10	4%	18	4%
		その他	0	0%	1	0%	1	0%
		小計		189		235		424

設問 33 あなたの、地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか。主なものを3つまでお答えください。

		人数 男性		人数 女性		人数 全体		
設問33	あなたの、地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか。主なものを3つまでお答え下さい。	時間に余裕がある人が行う	34	10%	39	10%	73	10%
		思いやりがあるもの	73	22%	99	25%	172	24%
		おせっかいなもの	6	2%	4	1%	10	1%
		偽善的	6	2%	5	1%	11	2%
		自らを成長させる	38	12%	29	7%	67	9%
		楽しい	34	10%	28	7%	62	8%
		自ら進んで行う	23	7%	35	9%	58	8%
		責任が重い	2	1%	1	0%	3	0%
		生きがいになる	1	0%	10	2%	11	2%
		社会にとって必要	34	10%	54	13%	88	12%
		人手をおぎなう	10	3%	7	2%	17	2%
		まちづくり	39	12%	57	14%	96	13%
		仲間づくり	11	3%	20	5%	31	4%
		わからない	19	6%	13	3%	32	4%
		小計		330		401		731

地域づくり、地域共生社会、地域の活性化、地域の再構築等に向けて、地域社会では、日頃から、「住民主体」「共助」「自助」が叫ばれている今日、地域づくりやコミュニティのあり方の基本となる考え方を、中学生に問い質した。

回答の多い順に、「思いやりのあるもの」24%、「まちづくり」13%、「社会にとって必要」12%、「時間に余裕がある人が行う」10%、「自らを成長させる」9%、「楽しい」「自ら進んで行う」各8%、「わからない」「仲間づくり」各4%、「人手を補う」「偽善的」「生きがいになる」各2%、「おせっかいなもの」1%。

全体的には、前向きな考え方として受け止めていると感じる。中学生が、大人社会に向けて成長する過程の理解（受け止め方）と認識したい。

「時間に余裕のある人が行う」は、男女とも同じ回答結果であった。「偽善的」は、男性2%に対して女性1%、「思いやりがあるもの」は、男性22%に対して、女性は25%と高い回答で、こうした認識においても、女性の地域社会への思いの認識は高いと感じる。

学年別では、「社会にとって必要なもの」の受け止めは、1年生10%、2年生11%、3年生17%と学年が上がるに従い、変わっていく回答結果であった。また、「まちづくり」は、学年が進むに従い、1年生・2年生12%に対して、3年生16%と高い回答結果であった。

設問34 あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。(◆-15)

		人数 男性	人数 女性	人数 全体
設問34 あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。	内容を理解している	46 29%	60 32%	106 31%
	内容を調べたことがある	25 16%	17 9%	42 12%
	言葉だけは知っている	72 46%	100 54%	172 50%
	知らない	14 9%	8 4%	22 6%
小計		157	185	342

		人数 1年生	人数 2年生	人数 3年生
設問34 あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。	内容を理解している	35 30%	36 29%	35 34%
	内容を調べたことがある	13 11%	19 15%	10 10%
	言葉だけは知っている	58 50%	59 48%	56 54%
	知らない	10 9%	10 8%	2 2%
小計		116	124	103

長い歴史の中で、広く助け合い運動として「赤い羽根共同募金」は、地域社会に根づいている。

「学校募金」「職域募金」「戸別募金」とそれぞれの領域で、呼びかけられている「赤い羽根共同募金」について、中学生の段階で、改めて設問項目として問い質した。

全体的な回答結果では、「言葉だけは知っている」50%、「内容を理解している」31%、「内容を調べたことがある」12%で「知っている」回答は93%。小学生対象の調査結果よりも、「知っている」回答は9%高い回答であった。

男女別では、男性の関心度が、やや女性より高い回答であった。学年別では、学年が上がるに従い、関心度が高い回答結果であった。

◆今回の調査結果を、2年前の児童(小学4年生～6年生対象)「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

なお、この設問項目は、中学生対象の調査票には、「知っている」回答項目を細分し回答を求めた。

	2021年度(児童対象)	2023年度(中学生対象)
①内容を理解している	①知っている 85%	31%
②内容を調べたことがある		13%
③言葉だけは知っている		50%
④知らない	②知らない 15%	6% ↓

本会は、これまで、よい地域づくりをめざして、市民からの尊い赤い羽根共同募金による助成事業により、地域の福祉課題解決に向けた地域活動に、積極的に取り組んできた。

今回は、中学生対象の「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」で、重点的調査設問項目として「赤い羽根共同募金」について問い質した。また、2021年度の児童対象調査との比較考察をした。この「赤い羽根共同募金」の回答結果を通じて、更に、大人社会に向けた課題提起をしたい。身近な「戸別募金」を通じて、家族や家庭内で赤い羽根共同募金の仕組みを話題にしていくこともできる。しかしながら、今日では、地域によって、その都度、個別に「赤い羽根共同募金」を集める地域環境ではない。自治会・町内会では、時期が来れば、各世帯から徴収した町内会費等をもって一括して対応する時代になり、本当の意味で、募金活動として展開とされていないため、表面化していない一面がある。また、「職域募金」を通じて、家庭内でも話題にしたいところである。「学校募金」は、中学生の日頃の小遣いからの協力も話題となる。これまでの、長い歴史の中で、学校教育だけに委ねることなく、こうした、身近な地域において、地域ぐるみで、また、家族ぐるみで「赤い羽根共同募金」を根づかせ、市民が主体となった福祉活動の意義を、単に理論だけの学びから、社会の仕組み・営みの中で、実践的に学び合うことは重要なことである。

地域社会における、福祉実体験に関する回答結果から見たもの

1. 今回の調査の目的は、中学生の地域参加を期待している大人社会に対して、中学生は、身近な地域における福祉体験活動の実情を把握するため、「福祉ふれあい交流・ボランティア活動の有無」を問い質した。回答結果から、85%が「ない」回答であった。意図的なものではなく、日頃の生活環境の中で、もっと、身近

に「身内福祉」「ご近所福祉」とともに、「手伝い」の範囲を広げた、自由に、そして、積極的に福祉実体験が出来る環境醸成に努めたい。

2. 大人社会に向かって成長している中学生は、今、地域社会が抱えている福祉課題をどのように受け止めているか、4年前に実施した大人対象意識調査結果と比較しながら考察すると、「見守り・声掛け（安否確認）」24%、「災害時の手助け」13%、「簡単な介助・介護」11%、「買い物支援」「話し相手」各9%、「移動支援」8%、「ゴミ出し」「定期的なふれあいサロン（居場所）」各4%、「子育て支援」「掃除（草取り）」「趣味・特技の援助」各3%、「配食」「調理」2%、「ペットの世話」「お墓の掃除」「簡単な修理」各1%等があげられている。この回答結果から、中学生の回答は、ほぼ大人の回答と同じ状況であることがわかり、超高齢社会への対応について、社会の現状を確実に受け止めている。

更に、身近な地域や家庭において、福祉課題の現状をしっかりと受け止め、関心を持つことを期待したい。

3. 地域が抱えている福祉課題に対して、中学生が参加してみたい活動分野は、「趣味・特技」の延長線上での「文化・芸術・スポーツ活動」が28%と多く回答している。こうした、中学生がもつ地域への貢献素材をいかに大人社会が引き出すか、また、「機会があれば参加する」22%の中学生や、「参加したくない」4%の中学生に対して、コミュニティ活動を、常に「見える化」「わかる化」する地域社会全体の課題がある。地域活動を後回しすることなく、誰でも地域参加できる環境づくりに努めていくために、大人社会と一緒に関わられる環境を心掛けたい。こうした調査を通じて、中学生の地域参加の必要性を強く感じる。地域づくりは、決して、誰かがやってくれるという認識から、みんなが参画する、創る、関わられる地域環境に向けた働きかけが大切であることを相互理解していきたい。

4. 身近な「募金活動」として、「赤い羽根共同募金」について、問い質した結果、「知っている」94%、「知らない」6%の回答結果は、小学生の「知らない」15%回答結果と、9%の大きな開きがあった。

これまでの、長い歴史の中で、学校教育だけに委ねることなく、身近な地域において地域ぐるみ、家族ぐるみで、「赤い羽根共同募金」を根づかせ、市民が主体となった福祉活動の意義を、単に理論だけの学びから、社会の仕組み・営みの中で、実践的に学び合うことは重要なことでもある。

6. 地域社会への期待・提言（設問 35 の 1 つの設問）

設問 35 ともに助け合う地域づくりに向けての、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言（自由意見）について、箇条書きでお答えください。

ここでは、設問 35 の「ともに、助け合う地域づくりに向けた、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言」を問い質した。回答した351名の中学生から、319件の（意見）回答をいただいた。

学年別、男女別にまとめた。 ※（ ）内数字は、それぞれの区分で、同じ意見としてまとめた。

全体的には、1年生男性97件で一番意見が多く、2番目は、1年生女性69件、次に、3年生女性54件、2年生女性40件、2年生男性37件、3年生男性22件の順であった。

「学年別」では、1年生166件、2年生77件、3年生76件で、1年生からの意見が一番多く、次に2年生、3年生であった。

◇1年生男性(97)

1. 赤い羽根共同募金の協力
2. 今のままでもいいと思う
3. 花壇を整備して、地域を明るくしたい
4. 行事の準備などに来る子供が少ないと思う
5. 高齢者と一緒にスポーツを楽しみたい
6. 高齢者への思いやり
7. 子育て支援などをもっと強力にすすめてほしい
8. 子どもたちが参加したいと思える季節を体験できる機会を期待する
9. ゴミが多く散乱しているので、環境美化に努める
10. これからは、積極的に地域参加活動をしたい
11. コロナが終わり始めているので、これから、楽しく過ごせるように期待したい
12. 時間を生み出して、地域活動に参加する努力

13. 常に挨拶できる地域で、世代を超えて、地域活動に積極的に参加する努力をする
14. 積極的に、ボランティア活動に参加をする
15. 誰もが、住みよい地域でありたい
16. 地域社会は、人と人が手を取り合っていくことが大切である
17. 地域の行事で、住民の交流を図る
18. 地域の情報発信や、行事企画に中高校生が参加し、子供・親・高齢者を「つなぐ」役割を担う
19. 地域の人が、気軽に参加できる行事を企画する
20. 地域の人たちと、日頃から、顔を合わせる機会を増やす努力
21. 地域の人と関係をよくする
22. 地域の一人暮らし高齢者の、さりげない見守り
23. 地域の良さをPRしていく
24. 常に挨拶など、コミュニケーションをとること
25. 何かきっかけが無いと動きづらいので、子どもたちが地域の方と関われる行事が増えるとよい
26. 人にやさしい地域でありたい
27. 福祉に関する活動を増やす
28. 防災について知識を身につける
29. ボランティア活動を積極的にして、住みよいまちづくりに取り組む
30. まず、皆で地域を意識するところから
31. 祭りは、多くの人に参加してにぎやかで良い
32. 皆、地域活動に参加して活気づけたい
33. ライン等のツールを活用して、地域情報にアクセスし易くする
34. これからは、積極的に地域活動に参加していきたい(15)
35. 助け合う心、思いやりの心(3)
36. お互いに、挨拶をする
37. お年寄りや、障がい困っている人を交流する機会などを期待したい(3)
38. 街灯をふやしてほしい
39. 環境保全、自然保護に関する活動をふやしていこう
40. 行事の名前を聞いて「楽しそう」、「行ってみたい」と思えるようになること(2)
41. 車椅子の人に、やさしいスロープ、手すりを増やす(4)
42. 交通事故を防ぐために、ミラーをつけた方がよいと思った
43. 交通の便が良くなってほしい
44. 高齢者などへの支援強化(5)
45. もっと地域活動を多くしてほしい(3)
46. 地域行事について、わかりやすい広報活動が必要(2)
47. 声掛けや挨拶をする
48. 最新技術を積極的に導入する
49. 防災・地震対策(2)
50. 時代についていけるように努力する
51. 自分たちで、よりよい社会をつくっていきましょう(2)
52. 障がい者や健常者でも、悩みがある人達が、集まることのできる公共施設があつたらいい
53. 商業拡大(地域の活性化)
54. 楽しく地域づくりをする(6)
55. 地域行事の質を上げる(2)
56. 地域のことが全然分からないので、これから知っていきたい
57. 空き家問題の解消
58. 一人ひとりの意識で地域は変わってくる(2)
59. 防災活動や、ふれあい・思いやりの活動をもっと入れたらいいと思う
60. みんながしあわせになる地域(2)

◇1年生女性(69)

1. 声を掛け合う(2)
2. 困っていたら声を掛け助けあう(2)
3. 地域行事への積極的な参加(2)
4. 仲良くして、ともに助け合う(2)
5. 挨拶を積極的にする
6. 赤い羽根募金で、障害者や高齢者、児童を支援したい
7. 安心して、子育てが出来る地域
8. 何時も、近所の人と会話が出来る努力をする
9. 駅などで、障害者や高齢者を見かけることが多いので、周りの人たちで、思いやりを心掛けたい
10. お年寄りから小さい子まで、全員が話しやすい地域になってほしい(挨拶を意識する)
11. お祭りの人手不足解消
12. お祭りに行って、みんなと交流している

13. 活気ある社会になってほしい
14. 環境をよくするためのゴミ拾い
15. 気軽にできる地域活動
16. 気の合う友だちと、地域活動に参加する努力をする
17. 近所の付き合いをよくする
18. 近所の人が集まる機会を多くする
19. 草取りをする
20. 交通ルールを守る
21. 広報啓発の工夫(若者を引きつける配色)
22. 高齢者の介助(買い物)が必要
23. 高齢者を、日頃から見守る活動をする
24. ご近所とのふれあい
25. ゴミを捨てない環境をつくる
26. これから、ボランティア活動に積極的に参加したい
27. 更に、お祭りやイベントなどを増やしてほしい
28. 地域の行事参加を呼びかけるポスターを、私たちがつくりたい
29. 自分が住んでいる地域をよくするために、出来ることを少しずつやっつけていこうと思いました
30. 自由な地域参加というより、やや割り当て方式も必要だと思う
31. 少子高齢化が進んでいるいま、介護を小さいころから身近に学ぶ機会があるといい
32. 沢山の地域活動に参加をする
33. 誰にでも向き合う
34. 誰もが助け合って、自分も、主体的に行動していきたい
35. 地域活動に参加する時間をつくる努力をする
36. 地域活動に積極的に参加できるように、学校からもチラシを配布してほしい
37. 地域参加呼びかけのポスターを作成する
38. 地域参加呼びかけのポスターを、私たちが中心になってつくる
39. 地域社会が、もっと明るくなるには、住民が積極的に地域活動に参加すること
40. 地域の活動を、もっと積極的にする
41. 地域の行事を、復活させたい
42. 地域の行事を増やして、高齢者にも積極的に参加してもらおう
43. 地域の人全員が、思いやりの心を持つ
44. 自分が参加したい地域活動に参加して、地域の人たちと積極的に挨拶をする
45. 地域の人たちが、もっと良い付き合いが出来るようになったり、仲を深められるようにしたりするために、大人から子供まで全員が楽しめるようなイベント(ハロウィン、クリスマス、お正月等)を行っていきける地域にしたい
46. 地域のボランティア活動に、積極的に参加する
47. 電車やバスなどで席に座れない人(高齢者等)に、席を譲れる人になりたい
48. 共に助け合う
49. なるべく、地域活動に参加をすること
50. 日本の刑罪の見直し
51. 日本の政治が、グタグタでおかしい
52. 幅広い年代の人が参加できる地域活動を企画する
53. 美化運動参加で、ごみを無くしたい
54. ベルマークの回収をしてほしい
55. ボランティアを増やす
56. 防災訓練は、なるべく多くの人に参加する
57. 身近な人たちで、助け合うために声掛けをしていけばよい
58. 魅力あるイベントで、地域をPRする
59. みんなが、言葉を交わし合う地域にしたい
60. みんなが、この地域の事を知り、理解すること
61. みんなで、過ごしやすい地域づくりに参加すること
62. 若者が、町について知るイベントの開催を期待する
63. 若者が、分かりやすい街の資料の作成
64. 若者と高齢者の交流できる環境
65. 私に出来る地域活動を調べる

◇2年生男性(37)

1. 環境美化(2)
2. 世代を超えた交流(2)
3. 地域活動に積極的に参加する(2)
4. 一部の人だけではなく、地域の人全員が、みんなで参加できる行事を企画する
5. 気兼ねなく参加できる地域活動

6. 近所の人には、進んで挨拶をする
7. 高齢者支援を増やす
8. 高齢者との関わりを多くする
9. 高齢者と若者とのふれあいの場づくり
10. 高齢者や障害者支援を増やす
11. これから、もっと地域活動に手を出していきたいと思います
12. 自由に生きることが出来る、地域社会になってほしい
13. 積極的に地域活動に参加をする
14. 楽しい行事を企画する
15. 誰もが、安心して生活できる地域をみんなで創る
16. 地域活動を、住民に行ってもらおう工夫
17. 地域のつながりを保つために、近所づきあいを大切にする
18. 地域の人たち全員が挨拶し合う地域
19. 地域の人たちと交流を増やすために集まる機会を増やす
20. 地域の歴史を大切にしたい
21. 努力して、地域活動参加の機会をつくりたい
22. なんでも話が出来る地域
23. 年齢や男女関係なく、協力して地域活動に取り組める地域
24. 日頃から、地域ぐるみで交流できる努力
25. ボランティア活動に、もっと参加したい
26. 身近な人を大切にする
27. みんなが楽しくなるようなことを心掛けている
28. 皆が手を組み、助け合いの輪を広げてほしい
29. みんなが一人ひとり、地域のために活動をするのが大切
30. みんなでふれあう
31. 役員を強制しない
32. 若者が、積極的に地域活動に参加すべきである
33. 私たちが、積極的に地域参加をして地域をよくしたい
34. 私の地域が、ほかの地域に認められるように期待する

◇2年生女性（40）

1. 世代を超えて、交流できる地域行事がほしい（2）
2. あまり目立たない人にも、声を掛ける
3. 安心できる地域を期待する
4. 街灯を、もっとつけてほしい
5. 高齢者が多くなっているので、ご近所で声を掛けあう
6. 高齢者支援
7. 高齢者と若者との交流の機会を増やしてほしい
8. 高齢者にやさしい地域づくり
9. 高齢者や障害者との関わりをしていく努力
10. 地域活動を広く知ってもらうため、学校や習い事など子どもの活動を通して紹介していく
11. 困っている人がいたら助ける
12. これからの地域社会に向けて、人材を育てるために行事を盛んにする
13. コロナ前にやっていた地域対抗の運動会をやりたい（地域の人と協力できるから）
14. 自分が出来ることを出来る範囲で行いたいと思う
15. 地域の一人暮らしの高齢者には、積極的に声を掛け挨拶をして、安否確認をしたいと思った
16. 自分も、積極的に地域行事に参加していきたい
17. 住民が積極的に地域参加活動に参加をする
18. 障がい者などを差別する人がいない地域
19. 沢山の人の関わるイベントがあり、豊かな自然を生かした美しい地域になってほしい
20. 誰もが、安心して生活出来る地域づくり
21. 地域活動を増やせる環境づくり
22. 地域行事に参加することは、地域の人たちと仲良くなれることだから、積極的に参加をする
23. 地域行事には、出来るだけ積極的に参加する
24. 地域の活動には、いろんな人に参加してもらえよう工夫が必要
25. 地域の事を、他人事ではなく自分事としてみる
26. 地域の美化環境活動に積極的に参加したい
27. 地域の人々が仲良くする
28. 地域の人々の交流が、もっと増えたらよいと思う
29. 地域をアピールする広報啓発
30. 中学生に、もっと行事の手伝いをさせたほうが良い
31. 使いやすい公共施設を、それぞれの地域に設置してほしい

32. 人とのつながりを大切にしていきたい
33. 不審者が沢山いるから、安心して生活できる地域でありたい
34. 町おこしの啓発(ポスター制作)
35. ただ地域行事をやるだけでなく、内容を深くすれば参加する人が多くなると思った
36. 幼児を受け入れる施設整備が必要
37. 若い人が、積極的に動くようにしたい
38. 私の地域では、コロナもあって行事が無い みんなで楽しく出来るイベントを期待する
39. 私の町には、外国人が多く住んでいるので、差別のない、ふれあいのできる地域でありたい

◇3年生男性(22)

1. 今、受験で勉強が第一なので、余裕が出来たら、これから積極的に地域活動に参加したい
2. 地域に、お店があると良い
3. 基本的に、自由な地域社会
4. 協力と連携の強化 → 地域住民や企業が協力をして地域の発展や問題解決に取り組む
5. 近所との関わりをもっと積極的にして、つながりを深める
6. 交通の便が悪いので、改善してほしい
7. 高齢者にとって、安心して暮らせる地域を、みんなで創る努力をしていくこと
8. 高齢者にやさしい地域づくり
9. これからも、積極的に地域活動に参加したいと思います
10. 自分の住んでいる地域をきれいにする
11. 互いを思いやること
12. 誰もが、己を出せる社会
13. 地域の行事が小規模なので、もっとお金を使って、楽しい行事だと、住民が参加しようと思う
14. 他地域に誇れる行事を期待したい
15. 通学で、自転車が多いが、高齢者でも安心して暮らせるようにしてほしい
16. バスが通ってほしい
17. バスの路線廃止で、高齢者の移動に支障をきたしているので考えていきたい
18. 人々が、助け合える環境にしたい
19. 平和な社会であってほしい
20. 防災訓練は、命にかかわるため、強制しても、やらせるべきだと思う
21. 防災に関係している地域活動に参加する
22. 若い人が席に座り、高齢者がときどき立っているが、脇人が気配りをするのが大切

◇3年生女性(54)

1. ボランティア活動をして、地域に役に立ちたい(3)
2. 挨拶をする
3. 介護支援を手厚く
4. 回覧板ではなく、町内で連絡がしやすいようデジタル化する
5. 交通の不便さを改善してほしい
6. 高齢者となると、自分で移動することが難しくなるので、バスを利用することになるが、時間が合わないことが多い 交通の便を考えてほしい
7. 子育て支援を手厚く
8. 子どもから大人まで、みんなが参加する行事があること
9. 困っている人がいたら声を掛けて、必要があれば進んで手伝い助ける
10. これからは、いろいろな人がボランティア活動に参加できる環境をつくる
11. 地域が掲げた目標は実行していく
12. コロナで、地域の交流が少なくなってしまった これから、また、活性化するように、地域の行事などを積極的に企画してほしい 「楽しさ」があれば、みんなが参加すると思う
13. 差別なく、いろいろな人と共生社会をつくる
14. 時間があつた時は、地域の行事に参加したい
15. 自分が参加できる地域イベントがあれば参加したい
16. 住民が、楽しいと思える地域行事を考えてほしい
17. 障がいのある方や高齢者の方が地域参加できる環境をつくる
18. 所属しているボランティア部の活動でも、より積極的に参加するようにしたい
19. 全ての人が、安心して暮らせる地域社会の実現
20. スポーツや地域活動を通して、いろいろなコミュニケーションが取れる機会があるといいと思う
21. 世代を超えた地域の行事が、コロナで、なくなり、また規模を縮小して寂しくなった 以前のよ様な楽しい行事の開催努力をしてほしい
22. 楽しいイベント開催を期待する
23. 誰かの役に立てるのであれば、ボランティア活動を積極的に行っていきたくです
24. 誰もが、暮らしやすい地域を期待する
25. 誰もが、安心・安全に住みやすいと思えるような地域

26. 誰もが、参加できる気軽な行事を開催してほしい
27. 地域活動をより多くの人に周知して、幅広く参加しやすい地域の環境をつくる
28. 地域での行事は強制参加はよくないと思うけど、町の雰囲気づくりのためには、呼びかけを行うことが大切だと思う
29. 地域住民に、今どんな問題があるのか知らせること
30. 地域に凝った人がいたら、積極的に声を掛けていく
31. 地域のつながりがあまり感じられないので、地域行事に積極的に参加しつながりを強める
32. 地域の特産物をもっと知ってもらうこと
33. 地域の中で、多くの人が住んでいて幸せだなと思える社会がいい
34. 地域の人々が、興味を持っているものを発揮する場をつくること
35. 地域の人たちが、お互いに助け合うことが大切
36. 地域の人と交流を深める
37. 地域の人々の意見を、多く反映した地域活動をする
38. 出来る限り、地域参加したほうが良いと思う
39. 習い事が多いので、出来るところから地域活動に参加したい
40. 人間関係をよくする
41. ノーマライゼーションに基づく支援
42. バスの本数を増やしてほしい
43. 幅広い年代の方々が、過ごしやすい地域を真剣に考えること
44. 日頃から、ご近所づきあいを大切にする
45. 人と人との交流
46. ポイ捨てが多い地域なので、禁止看板を立ててほしい
47. 防災に関する地域の行事などが、いつ開かれているのかわかっていないので、定期的に住んでいる町の掲示板を見て参加したいと思いました
48. 周りがやっている掃除活動に参加する
49. もっと、地域をよくしたい
50. 若い世代が、地域活動に関わること
51. 若者に呼びかける、年間の地域活動計画を示してほしい
52. 私の住んでいる地域は、子どもが多いから、子ども向けのイベントをすればいいと思う

中学生の自由回答から —これからの身近な地域への期待・提言—

「設問 35 とともに助け合う地域づくりに向けた、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言」の全体的な自由回答意見319件から、「中学生自身が気づいたこと」「身近な地域社会への思い」「大人社会への提言」の3つの項目で、主な意見を集約した。

1. 中学生自身が気づいたこと

- (1) 誰にでも向き合う
- (2) これから、もっと地域活動に手を出していきたい
- (3) 地域の事を、他人事ではなく自分事としてみる
- (4) 電車やバスなどで席が空いていなく座れない人（高齢者等）に席を譲れる人になりたい
- (5) 若者が積極的に地域活動に参加すべきである
- (6) 今、受験で勉強が第一ですので、余裕が出来たら、積極的に参加したいと思います
- (7) 互いを思いやること
- (8) ボランティア活動をして地域に役に立ちたい（3）
- (9) 挨拶・声掛けをする
- (10) 時間があつた時は、地域の行事に積極的に参加したい
- (11) 自分が参加できる地域イベントがあれば参加したい
- (12) 所属しているボランティア部の活動でも、より積極的に参加するようにしたいです
- (13) 誰かの役に立てるのであれば、ボランティア活動を積極的に行っていきたいです
- (14) 周りがやっている掃除活動に参加する
- (15) 防災に関する地域の行事などが、いつ開かれているのかわかっていないので、定期的に住んでいる町の掲示板を見て参加し、防災の知識を身につけたい
- (16) 日頃から、ご近所づきあいを大切にする
- (17) 習い事が多いので、出来るところから地域活動に参加したい
- (18) 自分が住んでいる地域をよくするために、出来ることを少しずつやっっていこうと思いました
- (19) 地域の一人暮らしの高齢者には、積極的に声を掛け挨拶をして、安否確認をしたいと思った

- (20) 自分も、積極的に地域行事に参加して、もっと地域をよくしたい
- (21) ご近所とのふれあい・つき合いをする
- (22) 自分が出来ることを出来る範囲で行いたいと思う
- (23) 私に出来る地域活動を調べる
- (24) 環境をよくするためのゴミ拾い
- (25) 地域のことが全然分からないので、これから知っていきたい
- (26) 花壇を整備して、地域を明るくしたい
- (27) 高齢者と一緒にスポーツを楽しみたい
- (28) ゴミが多く散乱しているので、環境美化に努める
- (29) 気の合う友だちと地域活動に参加を努力する
- (30) 参加呼びかけのポスターを私たちがつくりたい

2. 身近な地域社会への思い

- (1) 誰もが、安心して生活できる地域をみんなで創る
- (2) 防災訓練は、なるべく多くの人に参加する
- (3) 少子高齢化が進んでいる 介護を小さいころから身近なこととして、学ぶ機会があるといい
- (4) 地域の人たちが、もっと良い付き合いが出来るようになったり、仲を深められるようにしたりするために、大人から子供まで全員が楽しめるようなイベント（ハロウィン、クリスマス、お正月等）を行っていただける地域にしたい
- (5) 私の地域が、ほかの地域に認めてもらえるように期待する
- (6) 役員を強制しない
- (7) なんでも話が出来地域
- (8) 年齢男女関係なく、協力して地域活動に取り組める地域
- (9) 日頃から、地域ぐるみで交流できる努力
- (10) みんなが一人ひとり、地域のために活動をすることが大切
- (11) 近所の人が集まる機会を多くする
- (12) 他地域に誇れる行事を期待したい
- (13) コロナが終わり始めているので、これから楽しく過ごせるように期待しています
- (14) 地域社会は、人と人が手を取り合っていくことが大切である
- (15) 地域の人たちと、日頃から顔を合わせる機会を増やす努力
- (16) 常に挨拶など、コミュニケーションをとること
- (17) 何かきっかけが無いと動きづらい 子どもたちが地域の方と関われる行事が増えるとよい
- (18) 祭りは多くの人に参加してにぎやかで良いので、もっと地域活動を多くしてほしい (3)
- (19) 私の町には、外国人が多く住んでいるので、差別のない、ふれあいでできる地域でありたい
- (20) あまり目立たない人にも、声を掛ける
- (21) 私の地域では、コロナもあって行事が無い みんなで楽しく出来るイベントを期待する
- (22) 中学生に、もっと行事の手伝いをさせたほうが良い
- (23) 不審者が沢山いるから、安心して生活できる地域でありたい
- (24) 近所との関わりをもっと積極的にして、つながりを深める
- (25) 私の住んでいる地域は、子どもが多いから、地域向けのイベントをするといいと思う
- (26) 子どもから大人まで、みんなが参加する行事があること
- (27) 困っている人がいたら声を掛けて、必要があれば進んで手伝い助ける
- (28) 差別なく、いろいろな人と共生社会をつくる
- (29) 地域活動をより多くの人に周知して、幅広く参加しやすい地域の環境をつくる
- (30) 地域の行事は、強制参加はよくないと思うけど、町の雰囲気づくりのためには呼びかけを行うことが大切だと思う
- (31) 地域のつながりがあまり感じられないので、地域行事に積極的に参加しつながりを強める
- (32) 地域の特産物をもっと知ってもらうこと
- (33) 一人ひとりの意識で、地域は変わってくる
- (34) みんなが、しあわせになる地域
- (35) 障がい者や健常者でも、悩みがある人達が集まることのできる公共施設があったらいい
- (36) お年寄りから小さい子まで、全員が話しやすい地域になってほしい (挨拶を意識する)

- (37) 活気ある社会になってほしい
- (38) 地域活動に積極的に参加できるように、学校からもチラシを配布してほしい
- (39) 地域の歴史を大切にしてほしい
- (40) 誰もが己を出せる社会
- (41) 平和な社会であってほしい

3. 大人社会への提言として

- (1) 若者が分かりやすい、街(地域)の資料の作成
- (2) 若者に呼びかける、年間の地域活動計画を示してほしい
- (3) 子育て支援、高齢者支援などをもっと積極的にしてほしい
- (4) 子どもたちが、参加したいと思える季節を体験できる機会を期待する
- (5) 地域の情報発信や行事企画に、中高校生が参加できる環境をつくる
- (6) 子供や親世代、高齢者を「つなぐ」役割を担う
- (7) 地域の人が、気軽に参加できる行事を企画する
- (8) 地域の一人暮らしの高齢者のさりげない見守り
- (9) 地域の良さをPRしていく
- (10) 最新技術を積極的に導入し、ライン等のツールを活用して、地域情報にアクセスし易くする
- (11) お年寄りや障がいなどで困っている人を交流する機会などを期待したい
- (12) 街灯をふやしてほしい
- (13) 環境保全、自然保護に関する活動をふやしていこう
- (14) 防災訓練は、命にかかわるため、強制してもやらせるべきだと思う
- (15) 空き家問題の解消
- (16) わかりやすい広報活動が必要 広報啓発の工夫(若者向きの配色)
- (17) 一部の人だけではなく、地域の人全員が、みんなで参加できる行事を企画する
- (18) 地域行事の質を上げる
- (19) 若者が、町について知るイベントの開催を期待する
- (20) 魅力あるイベントで地域をPRする
- (21) 日本の刑罪の見直し
- (22) 日本の政治がグタグタでおかしい
- (23) 自由な地域参加というより、やや割り当て方式もよいと思う
- (24) 地域の行事を復活させたい
- (25) 街灯をもっとつけてほしい
- (26) 幼児を受け入れる施設整備が必要
- (27) 使いやすい、公共施設をそれぞれの地域に設置してほしい
- (28) 協力と連携の強化・・・地域住民や企業が協力をして地域の発展や問題解決に取り組む
- (29) 交通の便が悪いので改善してほしい 高齢者の移動に支障をきたしているので考えていきたい
- (30) 回覧板ではなく、町内で連絡がしやすいようデジタル化する
- (31) 地域が掲げた目標は実行していく 今、地域に、どんな問題があるのか住民に知らせること
- (32) ポイ捨てが多い地域なので、禁止看板を立ててほしい
- (33) 地域の行事が小規模なので、もっとお金を使って楽しい行事だと、住民が参加しようと思う
- (34) スポーツや地域活動を通して、いろいろなコミュニケーションが取れる機会があるといい
- (35) 地域の人が、興味を持っているものを発揮する場をつくること
- (36) 地域の人意見を、多く反映した地域活動をする

7. 厳しい社会環境の中で、調査に協力いただいた方々からの声

長引くコロナ禍から、少しずつ明るい兆しが伺えたこの時期に、本調査実施の運びとなったが、連日の猛暑気候状況下で、県内の各方面に、調査の協力をお願いした。大いに、地域社会では、地域活動参加を期待されている中学生は、一体、「地域社会」とりわけ「ご近所」をどのように受け止めているのか、「中学生対象の調査」実施にあたり、大変厳しい地域環境の中、調査に協力をしていただいた地域実践者、福祉施設、福祉団体等から、調査票とともに寄せられた意見(手紙・電話・メール)を、ここに要点を紹介する。

- (1) 社会福祉協議会では、「学習支援事業」に取り組んでいる。ここに、参加している中学生に「調査」を呼びかけ、1名から回答していただいた。
- (2) 社会福祉協議会では、福祉教育担当として、自分の学び合いと合わせて、学校、児童生徒と向き合っている日々。コロナで、地域は、以前よりも、様々な福祉課題を抱えている。「別に、福祉活動をやらなくても」といった雰囲気は、地域住民や役員からも伝わって来る。以前とは、違った地域との向き合いに努力している。
- (3) 私どもの市民活動団体の運営協力者である中学生に、快く回答していただいた。本人たちにとっても、この調査回答は、身近な地域を考えるいい機会になったと思う。
- (4) なかなか出口の見えない“コロナ”トンネルの中、加えて、猛暑の時期であったが、依頼された調査票が回収できた。今後、調査結果の公表を楽しみに待っている。
- (5) 年輩の私たちの周辺では、今回の調査の取り組みは困難であったが、日頃、地域活動で、ご縁をつくっているグループの皆さんの協力で要請に応えることができた。
- (6) 日頃、貴会の活動をマスコミで等知り、地域活動の参考にしている。
依頼のあった調査票は、地区の役員の協力をいただき回収できた。結果を楽しみにしている。
- (7) 貴会から、5枚の調査票の依頼があったが、なんとか、近所の中学生に呼びかけて4枚回収できた。
- (8) 長引くコロナ禍下と連日の猛暑も加わり、日常的な地域福祉活動が減少し、更に、中学生との接点の少ない私にとっては難しい活動であったが、なんとか、これまでのサークル活動の仲間に加わってもらい、これまでのつながりをもとに、5枚の調査票が回収できた。
- (9) ここ3年程、施設体験学習事業は実施できない状況であった。今年度は、コロナの規制が少しずつ、緩和されていたが、中学生の事業参加が少なく、貴会からの要望には、十分応えられない結果になったが、8枚回収できた。このたびの調査の趣旨は、十分理解している。今後も、施設として協力できるところは協力していきたい。
- (10) 社会福祉協議会事業として、特に、中学生対象の事業をこの時期に開催していないので、十分な調査票の回収は出来なかったが、8名の中学生に調査をお願いした。
- (11) 管内の中学校に出向き、調査をお願いしたが、教員の負担等を理由に受け入れてもらえなかった。
時代の流れを痛感する。それでも、なんとかと依頼し応じてもらった。
この学校では、内容がどうあろうとも、外部からの依頼は断っているとのことだった。
- (12) あまり、管内の人脈がなく苦勞したが、友人の協力もいただき、5名の中学生に協力をしていただき、回収できた。改めて、こうした調査活動の大変さを知った。また、中学生と向き合った貴重な時間を持つことが出来た。同じような感想を友人たちも語っていた。世代を超えた交流の必要性も感じた。
- (13) 私が取り組んでいる「家庭文庫」を小学生のとき積極的に活用した中学生 4 名に、快く回答してもらった。
こうした活動を通じて、子どもたちの成長を何うことが出来た。
- (14) 変革する国際情勢において、現在、我が国が直面する課題は実に多く、高齢者福祉分野においても、介護保険制度の持続に必要な介護人材不足は、制度の根幹を揺るがす大きな問題である。
介護保険制度の本質は、エイジング・イン・プレイス(歳をとって身体的に衰えても、住み慣れた場所・環境や住まいで、自分らしく暮らすこと)の実現にあるが、福祉専門職と地域社会との連携は不可欠であり、明日を担う子どもたちの育成は急務である。このたびの調査は、誠に意義ある取り組みである。
- (15) なんとか、施設体験に来られた中学生10名から回答をいただいた。施設として、結果を今後の施設経営に活かしていきたいので、「調査報告書」の提供を望む。
- (16) 教員退職して、20年が経過した。調査依頼を受けて、近くの学校に相談をお願いした。

- (17) 管内の中学校に出向き、調査の依頼をしたら、10名快く回答していただいた。
更に、調査が必要であれば連絡をください。(引き続き、10枚追加でお願いした。)
- (18) 施設訪問した中学生3名に回答していただいた。引き続き、中学生の訪問があれば、回答していただくようにする。
- (19) 調査に応じてくれた中学生は、全員管内の中学校に通う3年生。
貴重な情報源として、お願いしたところ、快く回答してくれた。
実は、近所に、中学校のPTAの役員をしている保護者がいて、趣旨を説明したら、中学生が応じてくれた。ご近所のつながりが、今回の調査につながった。
- (20) 私の近所の中学生に調査をお願いしたら、快く回答してくれた。
日頃、地域に暮らしていても、若者の意識や生活の実態がつかめないだけに、今回の調査結果が楽しみである。
- (21) 依頼された調査票は、友人のお孫さんや、ご近所の子どもたちに声を掛けたところ、すぐに回答してくれた。
- (22) 市内の中学生に調査票の依頼をしたら、すぐに回答してくれた。
- (23) 施設職員の家族の中学生に回答をしていただいた。
- (24) 私の母校の中学校に依頼をして、各学年均等になるように回答していただいた。
(10枚依頼したところ20枚回答)
- (25) 親同士のつながりで、調査の意義を説明し、子どもに働きかけた結果20枚回答してもらった。
(10枚依頼したところ20枚回答)
- (26) 近所に、中学生がいないため、さわやかクラブの定例会において、調査のことを話したら、仲間の一人が、快く引き受けてくれた。その仲間は、同居している孫に声を掛け、友だちにも呼びかけて10枚まとめてくれた。
- (27) グランドゴルフの仲間に、調査の説明をしたら、中学校のPTAの役員に相談してくれて、5枚回答してもらった。
- (28) なかなか、中学生と向き合って話すことが出来る地域環境ではない今日だが、調査の依頼を受けて、近所の中学生に協力を求めたら、素直に回答してくれた。
- (29) 地域で、毎朝、ラジオ体操をしている中で、中学生と同居している参加者に協力を呼び掛けて、すぐに調査票を記入し、家に届けてくれた。
- (30) 今の中学生が、どのようなことを考えているのか、こうした調査の取り組みに関心がある。
調査結果が出たら教えてほしい。
- (31) 地域の自治会定例会で、調査のことを紹介したら、会議の中で、中学生を取り巻く地域からの働きかけについて、しばらく話題が広がった。定例会は、毎回、連絡事項だけで終わり、地域の課題を議論することもないので、とてもいいことだと思った。調査結果を公表したら、内容を教えてほしい。自治会定例会で、研修会として取り上げるように働きかけてみたい。
- (32) いつも、通学時にすれ違う中学生に、調査のことを話したら、家に持ち帰って、記入して届けてくれた。自由意見欄にも、しっかりと意見を記入してあった。
- (33) ときどき、地域のサロン活動を手伝ってくれる中学生に調査をお願いした。仲間と、いろいろと話をしながら回答してくれた。地域のこうした取り組みをしっかりと理解している。
- (34) こうした調査を、私の地元の中学校の生徒さん対象に実施して、地域のことを、どの程度理解しているか知りたい。学校中心では、なかなか大変だと感じるので、自治会やコミュニティ組織の事業として取り組めないか働きかけてみたい。
- (35) 日常生活において、なかなか中学生と会う機会もなく、日頃、どのようなことを感じているのかも分からない自分にとって、孫にも匹敵する年代の中学生の意見を知る機会ができ、今後の家庭生活において、大いに活かせる調査であると実感した。